UNIVERSITY OF FUKUI

福井大学大学院 工学研究科

博士前期課程

2019

新たなミカタが待っている

新しい視点、
新たな出会い、
広がる可能性。

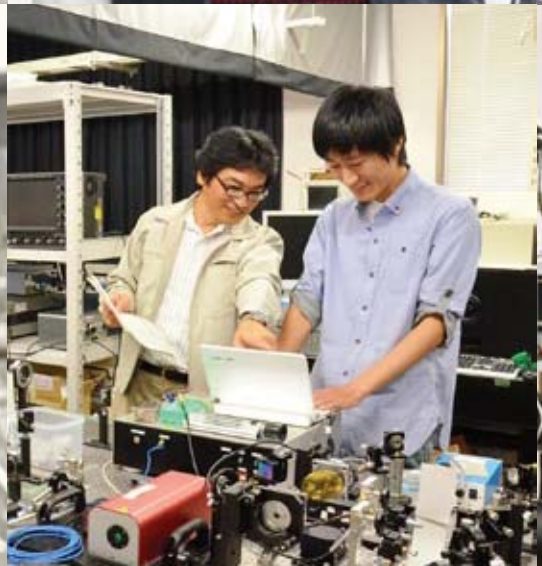
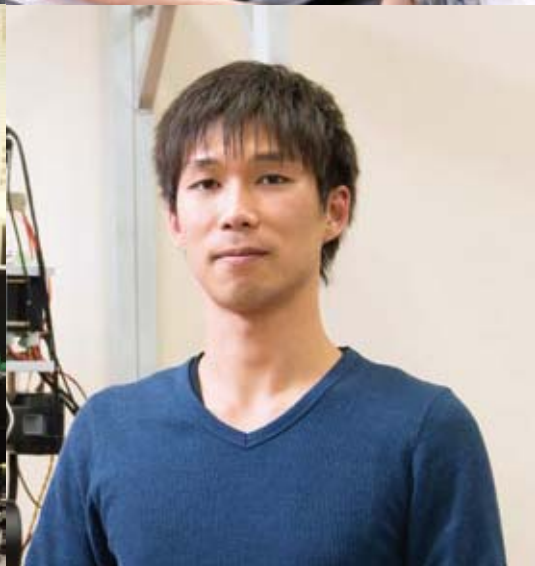
大学院で得られること。

それは、研究生活の過程で生まれる「学生ならではの経験」です。

今までになかった出会いや体験は、

あなたの「ミカタ」となり、あなたの力になります。

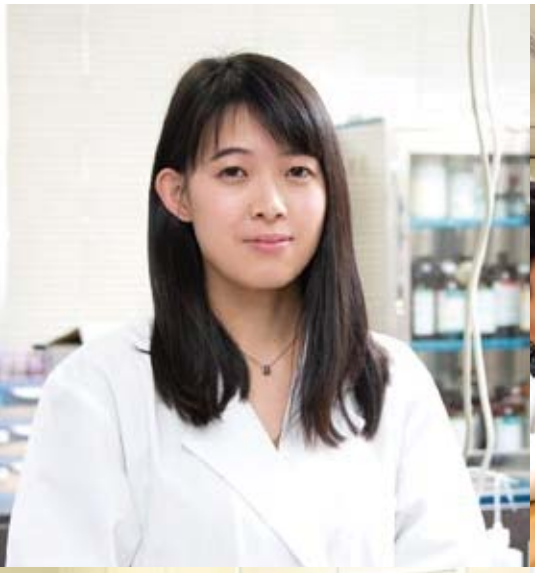
私たちと一緒に、自分の可能性を確かめてみませんか。

新たな
ミカタが
待っている

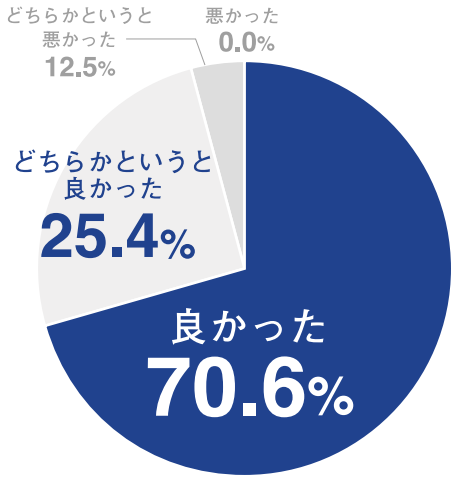
CONTENTS

04 大学院進学のメリット
06 就職実績
08 教育システム
10 学内外からの高評価
12 研究紹介
16 企業から見た大学院
18 わたしの「ミカタ」
21 学習支援制度
24 就職支援
25 入試情報・学生支援
26 専攻紹介
37 施設紹介



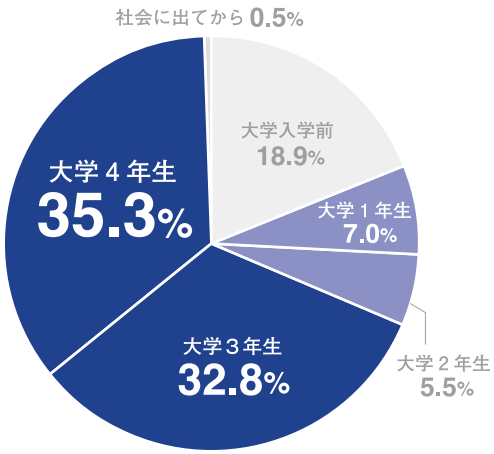
QUESTION 01

大学院は、良かった？



QUESTION 02

いつ、大学院進学を決めた？



QUES 0

大学院に進学して

専門分野への理解を更に深めることができた。（機械工学専攻）

自らの研究に対する責任感や問題解決に対するアプローチの仕方など、今後の仕事に生かせるような体験ができた。（物理工学専攻）

学部生の時とは違い、答えのわからないことについて取組む難しさを学んだと同時に楽しさも感じることができてよかった。（機械工学専攻）

提案する力は非常についた。何より自分を見つめなおす良い期間となった。（情報・メディア工学専攻）

海外研修や研究発表など学部では成し得ないことに挑戦でき、大きな自信をつけることもできた。大学院への進学は良かったと思う。（電気・電子工学専攻）

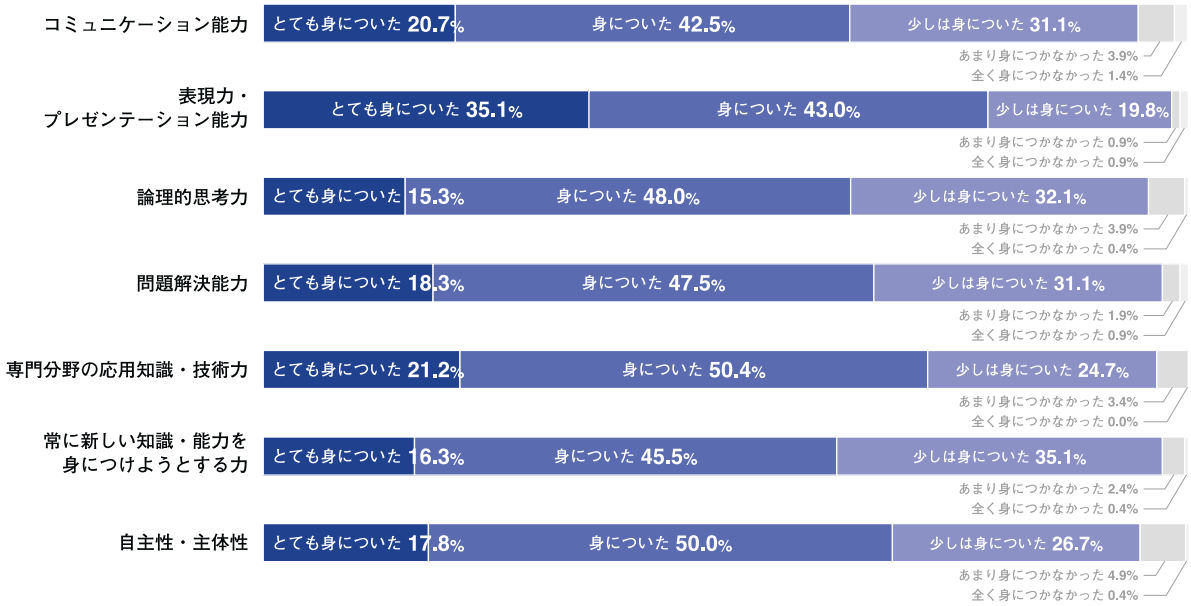
就職活動における選択の幅が広がり、今後極めていきたい分野を見つけることができた。自身の能力向上に充てる時間を十分に取ることができた。（情報・メディア工学専攻）

大学院に進学した事で共同研究先とのミーティングの機会が増え、社会人に近い生活を送ることができた（機械工学専攻）

4年の時は自分の実験の内容を深く理解できておらず不完全燃焼で終わっていたが、大学院に進学したことで納得がいくまで研究することができた。また、「できるかどうかわからないこと」に挑戦することの大切さを日々の研究から学べたことが自分にとっては何よりの収穫である。（材料開発工学専攻）

QUESTION 03

大学院で身についた能力は？



TION 5

良かった点は？

研究データのプレゼンをすることで人へ伝えることの難しさを知り、どのように構成し説明するか試行錯誤したことにより力が身についた点。（材料開発工学専攻）

企業や他大学との共同研究で様々な実務能力がついた（ビジネスマナー、コミュニケーション能力、文書作成等）。多くの学会で発表することができた。主体的に研究を進めることができ、論文を書くことで英語力が向上した。（物理工学専攻）

大学4年生では言われたことをやっただけだったが、今は自分がどんなことをしているのかを説明できるほど知識と経験を得た。（物理工学専攻）

自由に研究できるスタイルの研究室であったため、自ら計画し行動する重要性を知ることができ、自身の足りない所を指導してもらえたこと。（原子力・エネルギー安全工学専攻）

物事に対して多角的な考え方ができるようになった。考え方の幅が広がった。人前で発表する機会が多くなり、就職活動の際うまく行動、発言できたと思う。（原子力・エネルギー安全工学専攻）

学部時代に気付かなかった問題点や課題に気付き、それを解決することができたので良かった。（生物応用化学専攻）

学部では見えなかった風景が見えた。自分がどういう立ち位置なのかをより深く理解できた。（原子力・エネルギー安全工学専攻）

調査対象：平成29年度工学研究科博士前期課程2年次在学生

数多くの実績で
学生のキャリアアップを全力で支援

高い就職率

複数学部を有する
卒業生1,000人以上の国立大学で

10年連続
全国１位

福井大学全体の実就職率 97.4%

実就職率ランキング 複数学部を有する国立大学

	1位		2位		3位	
	大学名	就職率	大学名	就職率	大学名	就職率
2017	福井大	97.4	九州工大	95.5	電気通信大	94.8
2016	福井大	96.8	九州工大	95.8	電気通信大	95.3
2015	福井大	96.1	名古屋工大	94.1	群馬大	94.0
2014	福井大	96.7	九州工大	94.4	東京工大	93.8
2013	福井大	95.8	名古屋大	94.2	名古屋工大	93.6
2012	福井大	95.8	九州工大	95.3	名古屋大	93.5
2011	福井大	94.7	岐阜大	93.1	名古屋大	93.0

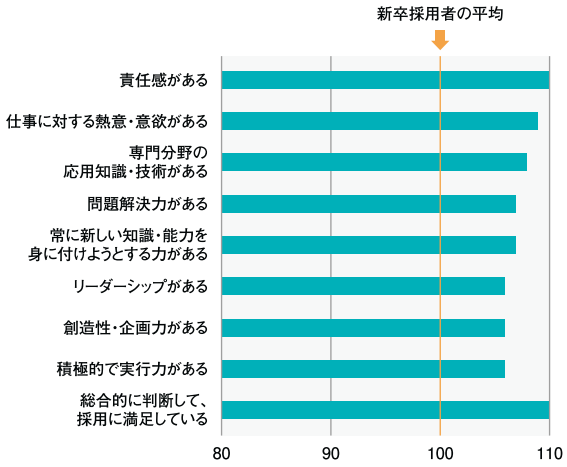
実就職率は大学通信調査の「全国大学就職率ランキング」
実就職率＝就職者数÷（卒業者数－進学者数）

高い人材力

01 ››› 就職先から高評価

人間力・学力ともに **高水準**

本学の工学研究科で学ぶ大学院生は、専門性を高めるとともに、問題解決能力や実行力など総合的な実践的能力を修得します。修了生は就職先企業等から、高い評価を得ています。

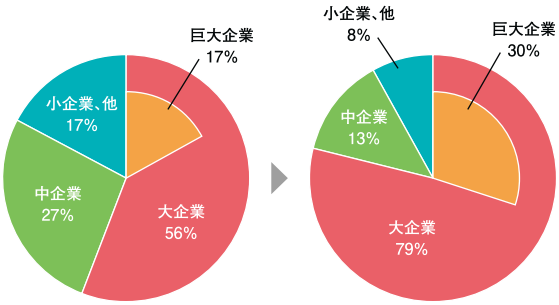


平成23年度～27年度に工学研究科修了生を採用した企業等からの評価
（調査時期 平成28年10月）

02 ››› 企業規模別の就職状況

より拡がる **企業の選択肢**

工学研究科修了生は、工学部卒業生よりも、規模の大きな企業に就職する傾向があります。



工学部卒業生 就職先　　工学研究科修了生 就職先

巨大企業＝従業員3,000人以上　　大企業＝従業員300～2,999人
中企業＝従業員100～299人　　小企業＝従業員99人以下

調査対象：平成28年度工学部卒業生、工学研究科修了生

大学院修了生の就職データ
～就職先過去5年間TOP10～

各専攻の就職先上位の企業です。県内外問わず、業界でも規模の大きな企業に就職できていることが分かります。

※過去5年間の集計データから就職者数の多い順に掲載

機械工学専攻
- アイシン・エィ・ダブリュ株式会社
- 日立造船株式会社
- 日産自動車株式会社
- 中菱エンジニアリング株式会社
- いすゞ自動車株式会社
- 株式会社福井村田製作所
- 株式会社豊田自動織機
- 関西電力株式会社
- 村田機械株式会社
- アイシン・エィ・ダブリュ工業株式会社

電気・電子工学専攻
- アイシン精機株式会社
- 日新電機株式会社
- 関西電力株式会社
- 三菱電機株式会社
- 住友理工株式会社
- アイシン・エィ・ダブリュ工業株式会社
- アイシン・エィ・ダブリュ株式会社
- スズキ株式会社
- パナソニック株式会社
- 日本特殊陶業株式会社

情報・メディア工学専攻
- メルコ・パワー・システムズ株式会社
- 福井システムズ株式会社
- 株式会社富士通北陸システムズ
- 富士通株式会社
- ニチコン株式会社
- 株式会社ジークス
- 株式会社天晴データネット
- 三菱電機メカトロニクスソフトウエア株式会社
- 株式会社ネスティ
- デンソーテクノ株式会社

建築建設工学専攻
- 西日本旅客鉄道株式会社
- 大和ハウス工業株式会社
- コイズミ照明株式会社
- 株式会社OSCAR J.J
- 株式会社サンワコン
- 株式会社伊藤工務店
- 株式会社田村設計
- 住友林業ホームテック株式会社
- 福井県庁
- 福井市役所

材料開発工学専攻
- アイシン・エィ・ダブリュ株式会社
- 株式会社東海理化電機製作所
- アイシン・エィ・ダブリュ工業株式会社
- セーレン株式会社
- 株式会社オンダ製作所
- 住友理工株式会社
- 日東シンコー株式会社
- 日本特殊陶業株式会社
- KBセーレン株式会社
- トヨタ紡織株式会社

生物応用化学専攻
- 住友理工株式会社
- 小林化工株式会社
- 日東シンコー株式会社
- アピ株式会社
- フクビ化学工業株式会社
- ポリマー化成株式会社
- 株式会社陽進堂
- 福井山田化学工業株式会社
- 林テレンプ株式会社
- アイシン・エィ・ダブリュ工業株式会社

物理工学専攻
- 住友電装株式会社
- NECエンジニアリング株式会社
- セーレン株式会社
- ニチコン株式会社
- 株式会社パロマ
- 古河電気工業株式会社
- 日本電産テクノモータ株式会社
- 豊田鉄工株式会社
- 矢崎総業株式会社
- アイシン・エィ・ダブリュ株式会社

知能システム工学専攻
- 豊田合成株式会社
- アイシン・エィ・ダブリュ工業株式会社
- 株式会社東海理化電機製作所
- 三菱電機メカトロニクスソフトウエア株式会社
- 中菱エンジニアリング株式会社
- アイシン精機株式会社
- 株式会社福井村田製作所
- トヨタ紡織株式会社
- パナソニック株式会社
- 日本特殊陶業株式会社

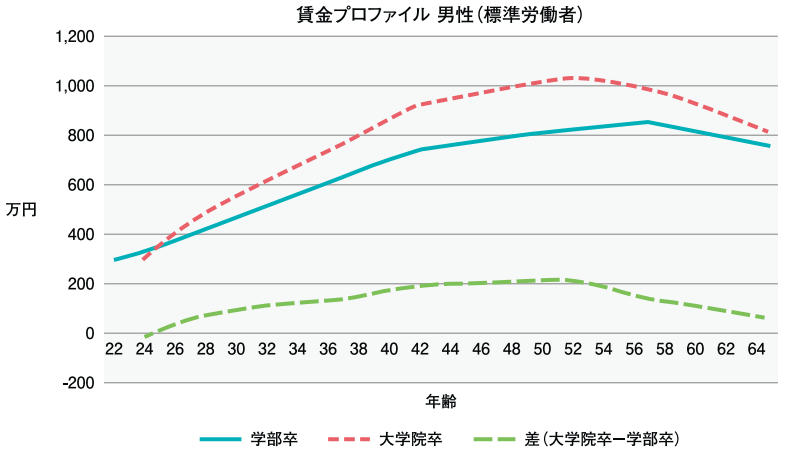
繊維先端工学専攻
- KBセーレン株式会社
- アイシン・エィ・ダブリュ株式会社
- セーレン株式会社
- シミズ工業株式会社
- トヨタ紡織株式会社
- 株式会社鯖江村田製作所
- 住江織物株式会社
- 日信化学工業株式会社
- 日本特殊陶業株式会社
- 日本毛織株式会社

原子力・エネルギー安全工学専攻
- 関西電力株式会社
- 関電プラント株式会社
- 日本原子力発電株式会社
- 北陸電力株式会社
- 株式会社千代田テクノル
- 三菱電機株式会社
- 国立研究開発法人日本原子力研究開発機構
- 東芝プラントシステム株式会社
- 豊田合成株式会社

学部卒業者と大学院修了者の年齢ー賃金プロファイル

全国的に、大学院修了者の方が学部卒業者よりも生涯賃金収入が高いことが、内閣府経済社会総合研究所発行の論文において発表されています（右図は、男性の正規労働者で転職がない場合）。大学院修了者と学部卒業者の生涯賃金収入の差は、男性の場合には4,846万円、女性の場合は4,334万円と報告されています。

出典：柿澤 寿信、平尾 智隆、松繁 寿和、山﨑 泉、乾 友彦“大学院卒の賃金プレミアム ーマイクロデータによる年齢ー賃金プロファイルの分析ー” ESRI Discussion Paper No.310 (2014).

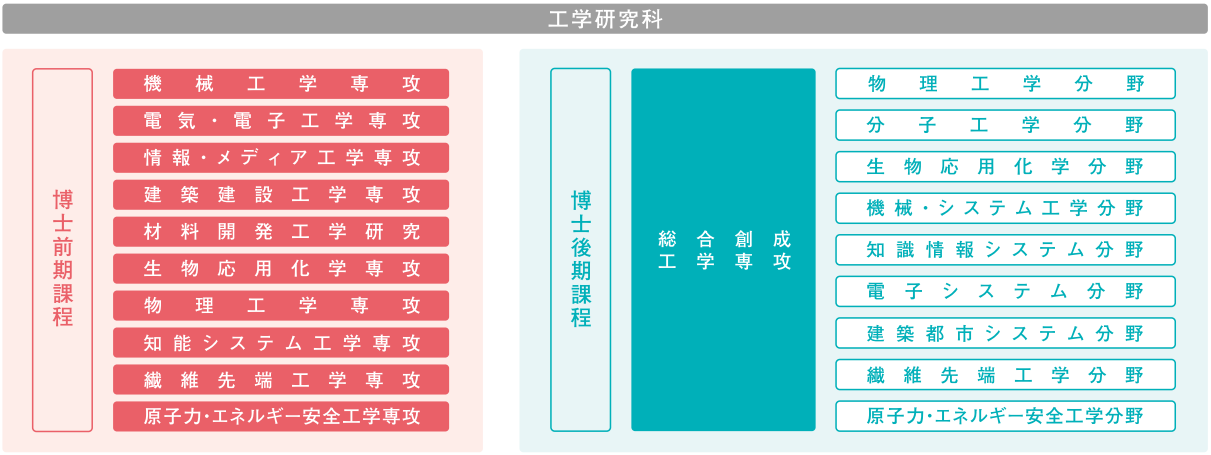


意欲を「確かな自信」に変える教育システム

夢を世界でかたちにする技術者、Global IMAGINEER をめざして

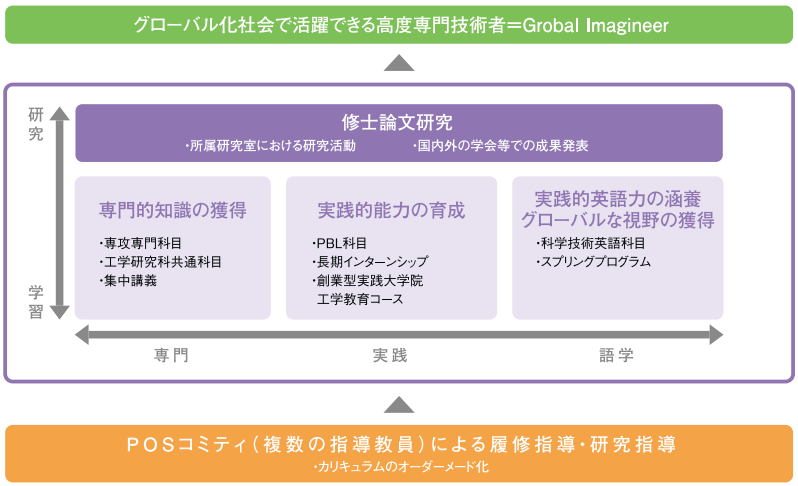
IMAGINEERはImagine（こころに描く）とEngineerからなる造語で、私たちが教育・研究・社会貢献を行う際の拠り所としている言葉です。福井大学工学部・工学研究科には工学のほぼ全領域にわたる多彩な人材が集まり、学生と教職員が一体となって個性と志に磨きをかけています。

工学研究科博士前期課程は、改組前の工学部8学科に対応した8専攻と、独立専攻の繊維先端工学、原子力・エネルギー安全工学を加えた10専攻。特色ある共同教育研究施設と連携しながら、ユニークな教育研究プログラムを用意し、学生の意欲を「確かな自信」に変えるサポートをしています。博士後期課程の総合創成工学専攻では、最先端の科学技術研究を通じて持続可能な社会の実現に貢献しています。



最高の評価を受けた先進的な教育システム

皆さんが「博士前期課程＝修士論文研究の場」というイメージを持っているとすれば、それは正確ではありません。修士の学位は、修士論文研究の遂行に加え、体系的なカリキュラムに基づいた大学院教育を受けることにより授与されるものなのです。工学研究科博士前期課程では、「高度な専門知識の獲得」と「実践的能力の育成」を教育の2大柱に据えています。どちらの柱も多くの科目を擁していますが、それらを無計画に履修しても効果は上がりません。専門知識と実践力をバランスよく身に付けるためには、各自の研究テーマも考慮した上で、どのような科目をどの時期に履修するか、ということをよく練っておくことが必要です。工学研究科博士前期課程では、計画的・体系的な履修を学生と教員が一緒になって考える「カリキュラムのオーダーメード化」を実施しています。これは、入学直後に各学生に対してPOSコミティと呼ばれる指導教員集団（最低3名）が組織され、学生とPOSコミティが面談を重ねながら2年間の履修プランを練り上げていく、というものです。これは大変に手間のかかるシステムであり、その実施は恐らく日本では初めてのことです。他大学の注目度も高く、日本学術振興会による審査を受け、4段階評価の中で最上位の評価を得ました。このように、工学研究科は先進的な教育システムを実践しており、その実績は高く評価されています。



～学生一人ひとりにとって最高の大学院教育を目指して～

ここには夢をカタチにする技術者を育む、ユニークで確かなシステムがあります。
そんな福井大学大学院工学研究科ならではの“Imagineering Factory”をご紹介しましょう。

ユニークな学習プログラム

カリキュラムのオーダーメード化は教育の「枠組み」ですが、その「中身」も大変充実しています。特徴的な科目としては、まずPBL（Project Based Learning）科目が挙げられます。これは、設定されたテーマに学生が自主的に取り組むことを通し、創造力、自己学習力、問題発見・解決能力、およびコミュニケーション能力などの実践力を身に付ける科目です。「フィールドワーク・地域貢献型」、「外部人材・機関活用型」、「実践基礎技術修得型」、「展示会・競技会参加型」などのタイプがあり、参加した学生からは「多くの問題に直面する一方、問題解決のために自分自身で考え行動したことは、講義のみでは得ることができない貴重な経験であった」といった声が多く寄せられています。こうした成果を受け、PBL科目は平成25年度から複数の専攻で必修化されており、実践力教育がさらに充実することが期待されます。また、企業における2ヶ月程度の体験学習を通して産業現場での取り組みを理解し実践的能力を育む科目として「長期インターンシップ」があります。企業に派遣する前後には大学内での学習があり、しっかりしたサポートのもとで派遣するため安心して参加できます。学生からは「仕事に対しての取り組み方や考え方、またこれからの人生で必要なことなどを学べた。進路選択をする上で大変貴重な経験になった」といった声が寄せられています。実践力育成教育を副専攻カリキュラムとして実施するのが「創業型実践大学院工学教育コース」です。大学が保有するシーズをもとに、製品開発とビジネスプランの実践を通じた人材育成を、産・学・官・民が連携して行い、修了生には「技術経営カリキュラム修了証」を発行します。学生を対象とした「ビジネスプランコンテスト」も毎年実施しています。また、海外留学の促進と国際性溢れる大学院生の育成等を目的とした「スプリングプログラム」では、春期休業期間を利用して中国の学術協定校に短期留学します。このように、Imagineerに必要な実践力を育む仕掛けを数多く用意しています。もちろん、専門知識を学ぶ科目も充実しています。これらをどのように組み合わせて活かしていくか戸惑うかもしれませんが、ご心配なく。カリキュラムのオーダーメード化がそのお手伝いをします。

フィールドワーク・地域貢献型
大野市六間通りの空間デザイン

実践基礎技術習得型
組み込みプロセッサを用いたFPGAベースの組み込みシステム設計

外部人材・機関活用型
原子力施設における原子力材料研究実習

展示会・競技会参加型
ロボカップ・サッカーロボット開発
チャレンジ・プロジェクト

充実した実践教育

工学の専門知識を社会で応用するためには、技術経営に関する知識が欠かせません。工学研究科では、産学官連携本部との協力のもと、博士前期課程に「創業型実践大学院工学教育コース」（副専攻）を設けています。本コースは、「起業家精神を備え、ビジネス感覚や実践的スキルを有する視野の広い人材の育成」を目的としており、どの専攻の学生も学ぶことができます。知的財産、マーケティング、マネジメントなどの講義と、ビジネスプラン作成や試作・試販売などの実習からなる体系的な「技術経営カリキュラム」が、企業経営者など学外講師の協力も得て開講されており、一定の要件を満たした学生には、学長名で「技術経営カリキュラム修了証」が発行されます。

技術経営カリキュラム開講科目
技術経営のすすめ、経営学概論、技術系のマネジメント基礎、起業化経営論、企業戦略概論、国際化戦略とオープンイノベーション、知的財産権の基礎知識、ベンチャービジネス概論、インターンシップ、製品・サービスの試作及び試販売、グローバル市場探索演習、On the Tutorial Training、On the Consulting Training（平成30年度現在）

技術経営カリキュラム修了認証
Certificate of the Accreditation on the Curriculum of
"Management of Technology"
at the University of Fukui

専門性を深め、実践力を高める大学院教育

博士前期課程では、コースワーク（授業）を受けるとともに、専門分野の課題に長期的に取り組みます。学会発表などを経験することで、プレゼンテーション能力や、問題発見・解決能力などが大きく向上します。コースワークも専門性と実践力の両方を鍛える構成となっています。専門性を深め、実践力を高める大学院教育は、各方面から高く評価されています。

博士前期課程の学生による評価

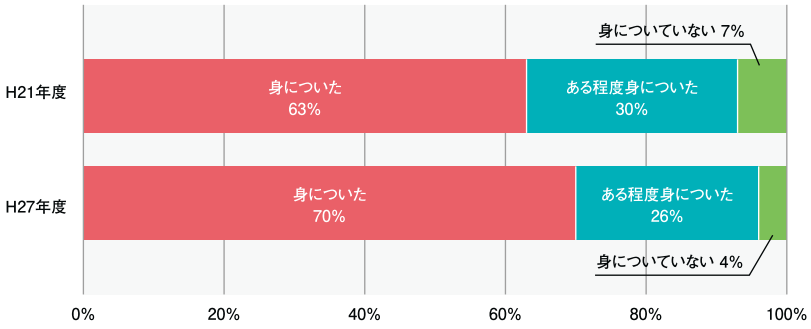
平成21年度と27年度に実施した「福井大学の教育・研究に対する意識・満足度調査」において、博士前期課程で学んだ学生の多くが専門知識・技術と実践的能力のいずれについても修得できたと回答しています。平成27年度の方が肯定的回答の割合が高いことは、教育の質が向上していることの証です。

右の質問項目以外に対する回答状況（平成27年度の調査で“「ある程度～十分」身についた”と 回答した割合。括弧内は平成21年度からの変化）

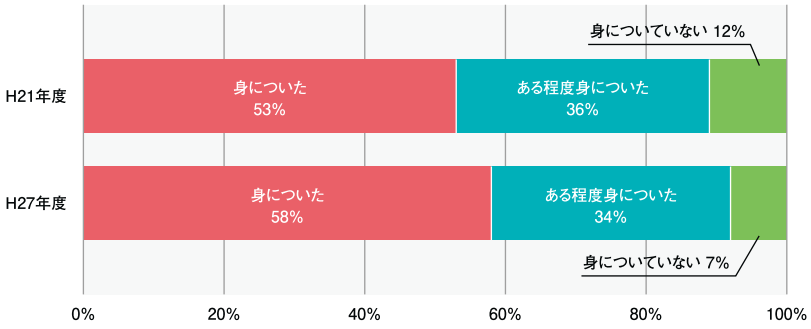
新しいアイデアや発想を生み出す力	92.6%	（8.3%増加）
文章作成や文章表現の力	96.3%	（7.1%増加）
社会や技術の変化に対応する力	92.5%	（5.0%増加）
広い視野で物事を多面的に考える力	97.2%	（3.8%増加）
外国語でコミュニケーションする力	74.1%	（19.1%増加）

調査対象：平成22年3月と平成28年3月に博士前期課程修了の学生

Q. 専門知識や技術が身につきましたか？



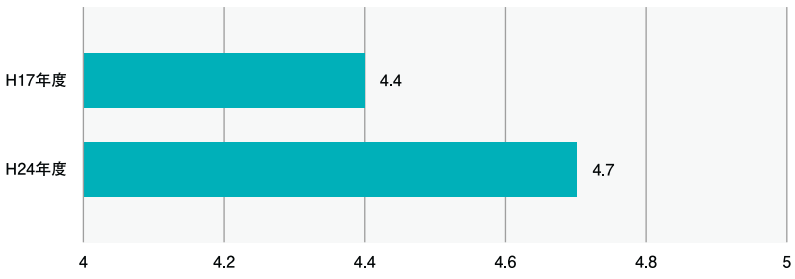
Q. 実践的な能力が身につきましたか？



外部の有識者による評価

工学部・工学研究科では7年ごとに外部の有識者（企業関係者、大学関係者など）による外部評価を受けています。教育内容・方法改善への取り組みについて、高い評価を得ています。

Q. 教育内容・方法改善への取り組みは適切ですか？



工学部と工学研究科をあわせ5点満点で評価

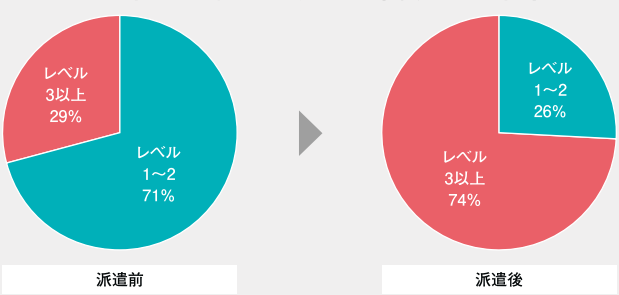
海外派遣による学生の成長

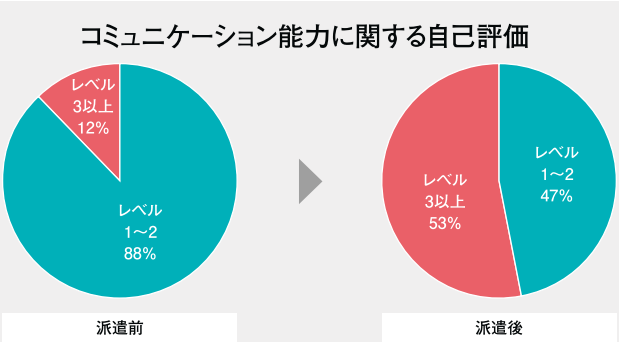
国際会議における口頭発表などのために大学院生が海外派遣されることは珍しくありません。優秀な発表により表彰される学生も毎年います。

第49回米国機械学会 配管と圧力容器強度に関する国際会議において第23回Rudy Scavuzzo杯争奪学生セッションの学士・修士部門第1位となった森紘亮さん（原子力・エネルギー安全工学専攻）

台湾で開催された2017 International Symposium on Optomechatronic Technologyにおいて、73件の発表中トップの評価を得て、Best Paper Awardが授与された坂野琢弥さん（知能システム工学専攻）。

海外派遣により、コミュニケーション能力などの汎用的技能も大きく向上します。平成27年度に海外派遣された工学研究科の学生のコンピテンシー（能力）の変化を、「福井大学グローバル・コンピテンシー・モデル」により自己評価した結果、海外派遣による各種コンピテンシーの大幅な向上が明らかになりました。





※「福井大学グローバル・コンピテンシー・モデル」では、「自己学習力・問題解決能力」、「コミュニケーション能力（語学力含む）」、「専門的知識・能力」などの7つの能力等を、ルーブリック方式によりレベル1～5の5段階で自己評価します（レベル5が最高）。「自己学習力・問題解決能力」の場合、レベル2と3は以下のように設定されています。

レベル2：現状を分析し、目的や課題を明確にして課題解決のための具体的な目標、計画を立てることができる。
レベル3：課題解決に向けた目標、計画のもと、周囲の人にも働きかけて協力を得ながら確実に行動を起こすことができる。

大学改革支援・学位授与機構による評価

工学研究科は、平成22年度～27年度（第2期中期目標期間）の教育に関して、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構より高い評価を得ました。

独立行政法人大学改革支援・学位授与機構による全体の評価結果は、以下からご覧になれます。
http://www.niad.ac.jp/n_hyouka/kokuritsu/kekka_h28/

教育成果の状況	質の向上度
期待される水準を上回る	改善、向上している
※上位11%以内	※上位33%以内

※調査対象の831組織（全国の国立大学法人等の学部・研究科等）の中での評価

より良い質を求めて見えないものを測る。

材料開発工学専攻

博士前期課程１年（学年は取材時のもの）

藤田 千秋さん

成分分子の解析で高品質な材料・製品を

マイクロカプセルやエマルション（水と油が洗剤などで混ざりあった状態のもの）を質量分析計で直接測定し、ミクロな領域に存在する成分分子を直接解析する研究を行っています。マイクロカプセルは、例えば衝撃や汗に反応して香る洗剤などに使われています。現在は、マイクロカプセルの中に含まれる成分の解明や粒子の大きさなどの測定を行っており、今後は成分の放出挙動なども調べていく予定です。

当研究室は分析化学が主体ですが、それは「分析方法をつくる」ことが課題であるとも言えます。先程挙げたエマルションは非常に不安定な物質で、従来の測定法では評価できないこともしばしば。世間には新しいもの・測れないものが溢れているので、「測れるようにするには」「より簡便に測るには」「より低コストで測るには」といった観点から分析方法を開発・改良する必要があるのです。直接的な製品開発も重要ですが、その製品がより長く安定するかという“製品評価”もまた重要です。中身の分からない物質の評価法を作り出したり、わかっている物質から一度の測定でより多くの情報を引き出したり。そうした研究で高品質な材料・製品の開発に貢献しています。

全力投球できるのは自分で決めた研究だから

先輩の知識量を目の当たりにして、「研究職に進むなら大学院で本当の勉強をしないと!」と思い進学しました。大学院生になって大きく変わったのは、後輩たちの指導もしなくてはいけないことですね。学部生の頃は装置のことも全く分からなくて、先輩方に言われるままにやっていましたが、後輩に指導することで正しく理解できるようになりました。

分析研究室なので、分析する素材も自分で作る必要があります。専門外の幅広い知識を独学で習得しなくてはいけないのが大変ですが、自分なりの工夫をしながら自分で決めたことを研究するのは本当に楽しいです。先生からもずいぶん任されるようになり、自分の手で研究しているという実感が日に日に強くなっています。

就職活動は、化学系・繊維系のメーカーを中心にアプローチしています。分析で培った知識や思考力などを研究開発で活かしたいと思っています。

負荷が軽減すれば人はもっと前に進める。

知能システム工学専攻

博士前期課程１年（学年は取材時のもの）

村井 翔太さん

“原発用”は嘱望される、地元密着のニッチな領域

「人の動き」をテーマにパワー・アシストスーツを研究し、力センサーのデータを基にして、より負荷を減らすための制御の仕組みを作っています。近年、運送業者向けのものが出回っていますが、私が開発しているのは原子力発電所の除染作業用。除染作業者は10〜20kgの鉛エプロンの上に防護服を着て、さらに物を運ぶなどの作業をするので、その負荷の軽減が目的です。現時点では筋電位を使う「HAL」が性能面において群を抜いていると言われていますが、防護服は非常に気密性が高く大量に汗をかくため、センサーがずれたり、汗で筋電位が測れなかったりするので、筋電位以外を使う力センサーやモーションセンサーで進めています。他にも、大きいカイト（凧）での風力発電や小型の人型ロボットとのコミュニケーションなど、細かく分けるとかなり幅広く研究しています。もともと「災害時に人を助けるロボット」に興味があって専攻を選んでいたので、研究室に入って「これがやりたかった!」と感動しました。今夏にはラスベガスで行われるウェアラブルマシーンなどの学会に出席予定なので、日々準備を進めています。

本望の研究を通して実践力を身につける

大学院に進学した一番の理由は、学部4年の時の研究が自分の中で中途半端だったことです。今は、先輩・私・後輩の3人1チームで取り組んでいて、自分1人では無理でも2人のおかげで達成できたと感じることが多いです。昨年はスーツの大改造を行ったのですが、センサーのデータを見るだけでは装着感までは分からないので、装着者になって、きちんと感想や改善点を伝えてくれたのがありがたかったです。特に、「今日のは良かった」など言葉で感想を聞くのが、一番モチベーションが上がります。就活を始めて、企業に求められるのは研究内容ではなく、問題解決への取り組み方だと分かりました。研究を続けていれば当然課題に行きあたるし、解決しなければいけない。学びを通して身につけた、自分なりの考察と解決へのプロセス作成が役に立つと感じました。あと重要なのは説明力です。手伝ってもらうにも教えてもらうにも、問題点を分かりやすく説明しないと相手に伝わりません。自分なりに要点をまとめ、相手に自分の意図を理解してもらえるように伝えるスキルが、日々の実践を通じて身についたと実感しています。

新風を吹き込んで原子炉解析の最先端に挑む。

原子力・エネルギー安全工学専攻

博士前期課程１年（学年は取材時のもの）

堀田 理穂さん

誰も手がけていない未踏の手法を探し出す

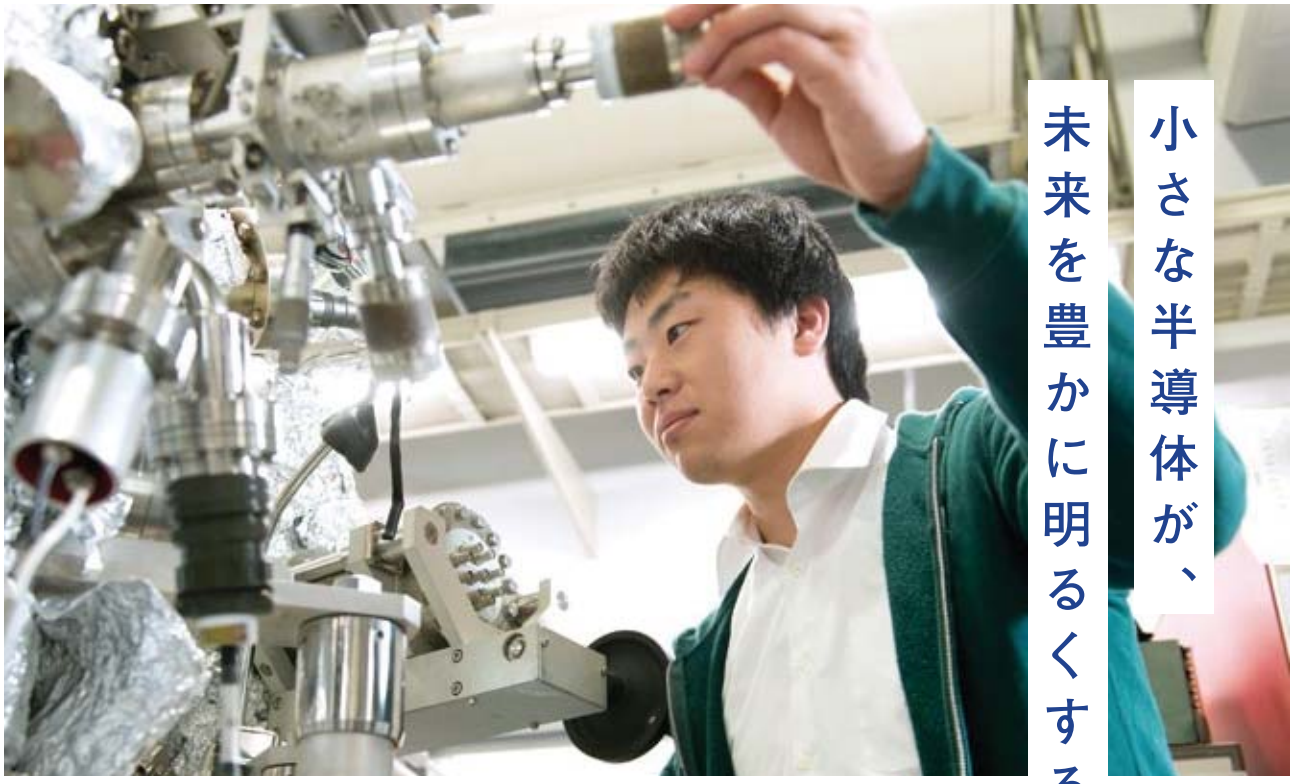
原子物理学を応用した、「中性子輸送計算手法」を開発する研究に取り組んでいます。私が手がけているのは、既存の手法とは異なり、あくまで新しい計算手法を導き出す研究。自分で考えた理論から理想とする中性子の動き（流れ）が実現できるのかをシミュレーションソフトを使って検証しながら、新しい計算手法を生み出すというものです。

原子力発電は、ウラン原子に中性子が当たることで発生するエネルギーを利用した発電方法ですが、従来の計算法だと計算値と実際値の間に若干の誤差が生まれるので、原子炉内の物理的な動きを、より現実のものに近い数値で導けるような計算方法を模索しています。常に「どうすれば複雑な形状を正確に表現できるか」を考えていて、シミュレーションで再現できた時の喜びはひとしおです。うまくいかないこともありますが、新しいものを生み出す研究なので、「誰も見つけていない方法を見つける」というだけでもやりがいがあります。

熱誠に学び得た実践的な知識で地域貢献

学部生の頃から物理を履修していましたが、新しい方法や手法を自分で考えて作り出していくことが本当に楽しくて、私に合っていると感じていました。しかも私は敦賀出身なので、自分の興味のある分野で地元に貢献できればという思いもあり、大学院に進学し、この研究に取り組みました。大変なのは、身近に同じような研究をしている人がいないので、相談しづらいことですね。何か分からないことがある時には、先生と1対1でディスカッションしながら進めています。

学部での勉強は実践的な研究ができる機会は少ないです。研究が楽しいと感じたなら大学院への進学をおすすめします。実際に知識を応用したり、新しい知識を必要に応じて学んだりできるので、より本質的なことに触れられ意欲的に取り組めます。あとは、とにかく英語力が身につきます。私自身、留学とホームステイを経験しましたが、研究室に海外からの留学生が多いことから日常的に英語をつかう機会があります。自然と英語力が上がりました。



小さな半導体が、未来を豊かに明るくする。

電気・電子工学専攻

博士前期課程２年（学年は取材時のもの）

石丸 大樹さん

コンパクトで省エネな次世代の半導体開発を

近年、青色LEDなどで注目されるようになった「窒化物半導体」を作る研究をしています。半導体は、エアコンを快適な室温で運転させたり、自動車の安全性を高めたりと多様な分野の機器の制御に活用されていて、私たちの生活をより豊かに、スマートにしてくれるものだと言えます。

そもそも半導体とは、シリコンなどの結晶基板にガリウムなどの金属を結晶化させたもの。基板の上に極薄の結晶を作り上げる技術を「エピタキシャル成長」と言い、より良い性能、品質の半導体を目指すうえで欠かせない研究です。しかし、従来のシリコンなどでは素材による性能的な限界があるので、私は安定性のあるサファイアなどを基板に用いて、さらなる性能の向上を目指した研究を行っています。サファイアは高温でも安定しているという特性があり、冷却ファンを使う必要がなくコンパクト化が実現可能。しかも従来より少ないエネルギーで動かせるため、併せて省エネも実現できるのです。

「デバイス」の力で一歩先行く明日を

もともと電気の力で大きな物を動かすパワーエレクトロニクスが好きで、とことん学びたいと思っていました。パワーエレクトロニクスには、大きな役割を担う3本柱「制御」「動力」「デバイス」があるのですが、「制御」や「動力」は個人的に楽しみながら実践しているので、本格的に学びたいと思っていた「デバイス」を扱う研究室に入りました。結果が良くなっていくのはもちろん嬉しいですが、思うようにいかなくても、原因を考え、改良方法を探っていくことも楽しいです。好きな分野を突き詰めているという実感が、今のモチベーションに繋がっています。

大学院では、何よりも「自分で課題を見つけて筋道を立て、自主的に解決する力」が身につきました。あとは、身につけた知識を応用してアプローチする力と効率的に研究を行うためのスケジューリング能力ですね。実験で使用する機械が共有のものなので、スケジューリング能力は必須です。来年からは、今まで学んだことを十分に活かせる環境で働けることになったので、皆さんの生活をより豊かにできるような製品づくりに貢献していきたいと考えています。

FROM COMPANIES

日立オートモティブシステムズ株式会社（佐和工場）
技術開発本部 次世代モビリティ開発室 自動運転技術開発部
主管技師 大坂 英樹さん

ぜひ越えてほしい「壁」があります。

修士卒と学部卒の大きな違いの一つに国際学会の発表経験があると思います。その経験を非常に重視しています。学会は価値ある発見をアピールする場ですし、自分と他の人を相対的に見られる機会なので、とてもいい訓練になると思います。研究の成果をまとめるスキルだったり、見せ方や英語での表現など、準備段階でもさまざまなハードルがあって、そこを経験できるのが修士の良さだと思います。ビジネスはお客様に販売をすることが前提なので、自分が開発した製品の訴求力を伝え、提案する力が問われます。その経験があるかないかは、かなり重要です。

挑戦する気持ちを忘れないでください。

国際学会という話をしましたが、やはり世界を相手にできる人を、企業は求めています。現在、研究職を志望する方は、日本人に限らず海外からも大勢集まる時代です。そういう世界の人たちと比較されて見劣りしないかどうかも、重要なことなのです。世界では、博士号を持っていない人は一人前として扱ってもらえないほどですからね。自分の人生をどう選ぶか、何をするのかにもよると思いますが、本当に研究の道に進むなら、修士は必須だと思います。修士を出てから、そのまま博士を取るだけが選択肢ではないし、一度就職してからでも全然遅くない。大学院では、そういう挑戦する姿勢を持ち続けて、世界の舞台でも勝てる力を自分のものにしてほしいと思います。

たくさんのハードルに、立ち向かってきてください。

写真はすべて2016年取材時のもの

FROM COMPANIES

日華化学株式会社
界面科学研究所
副所長 兼 先端技術研究部長　塚谷 才英さん

知識を活かし、経験を積む。

大学院で学ぶ人に期待するのは、高い専門性はもちろんのこと、研究室という小さな会社のような環境で揉まれる「経験」です。どちらかだけでは駄目で、得た知識を自分の研究に落とし込み、切り込んでいく力をつけてください。大学院は結果が出ないかもしれない研究に2年間向き合う環境なので、自分で工夫して進める意識があるかどうかが大切だと思います。研究は大変だと思いますが、余裕がない中で「こなしてる」だけで満足してしまうと、得るものは少ないです。そこから半歩でも踏み込んで、試してみるだけでも価値はあると思います。

自分で限界を決めないこと。

企業での研究は、お客様からの問題を解決することが中心になります。やりたい研究ができないことも当然あります。企業での研究者は、やるべきことを「好きにならないとやれない」職業だと思いますね。「本当はこっちがやりたいのに」なんて考えるとつらいですし、自分に逃げ道を作ってしまうと、上手くいかない。苦手なことにぶつかっても、勉強して、切り口を見つけて実行したり、パッと発想を変えてやってみるような、『楽しむ力』は、必要だと思います。間違ってたっていいんです。自分で限界を決めないことが大切です。ぜひ、大学院で大いに失敗して、それを楽しめてしまうような、泥臭い研究者精神を身につけてください。

写真はすべて2016年取材時のもの

失敗を楽しみに変える力がある人こそ、研究者です。

MIKATA

大学院だから出会えた

わたしの「ミカタ」

大学院を修了し、社会で活躍されている先輩方に、
当時の研究生活で得られた「味方」、身についた「見方」をうかがいました。
自分の成長につながる「ミカタ」は、思いがけない所にあるのかもしれません。

わたしのミカタ 01

様々な知識を「点」で終わらせず あらゆる分野と関連付ける

大学院でご指導いただいた先生の言葉で、生徒達に教える場面で常に意識していることです。私は理科の教員を目指し、専門の物理は人並み以上に勉強したつもりですが、物理だけできても仕方ないんです。興味がない人、苦手な人にも伝えるためには単に現象を説明するより、「ギターはこんな原理で音が出ますよ」とか「メダルを獲ったカーリングは擦れば擦るほど摩擦が…」というように興味ある分野と結びつけた方が楽しんで学んでもらえます。それに気づいてから物理と物理以外の分野の繋がりを意識するようになり、既に持っている知識との関連付けで勉強が捗りました。

仁愛女子高等学校 勤務
佐藤 直哉さん（物理工学専攻 2017年修了）

わたしのミカタ 02

不成功は、「失敗」ではなく 「うまくいかない」という新発見

所属していた研究室は本当に雰囲気が良く、研究が上手くいかない時は仲間同士で励まし合い、次の段階に進めば一緒に喜び合うような仲でした。そんな中で、一番学んだのは「何事も楽しむ」という精神。ネガティブ思考になると、どうしてもモチベーションは下がってしまいます。失敗を失敗と思わずに、「出来ないという新発見だ」とポジティブに考えることが次に繋がる秘訣だと思います。現在も仕事で難しいことを言われますが、大学院生活で身についた「何とかなるだろう、楽しんでやろう」という気持ちが、日々頑張る動力源になっています。

株式会社オンダ製作所
商品開発本部 勤務
中野 拓弥さん（材料開発工学専攻 2015年修了）

徹底的な教えから学んだのは、数値１つにも「責任を持つ」ということ

私が所属していた研究室のゼミは「こんなに長時間にわたるのはこの研究室しかない」と思う程で、どんなに長くなっても先生は決して妥協されませんでした。ゼミでは、文章の書き方、数式の導き方、実験結果に対する考察などを徹底的にご指導いただき、自分の研究結果に対して責任を持つという研究者としての心構えを学びました。また、常に「どのように説明したら相手に伝わるか」を意識するクセも身に付き、プレゼンの機会が多い現在の仕事でとても役に立っています。このように大学院時代に培った経験が今の私の根幹にあり、ご指導いただいた先生に心から感謝しております。

ブラザー工業株式会社
開発センター 技術革新部 勤務
小栗 諒子さん（原子力・エネルギー安全工学専攻 2013年修了）

適切で分かりやすい表現は推敲を重ねることで生まれる

大学院での研究は非常に専門的になるため、使われる単語も難しくなりがちです。用語の説明においても言葉を適切に選ばなければ、ニュアンスが間違って伝わってしまうこともしばしば。学会や報告会での分かりやすい説明に、より良い文章や図解を用いることは必要不可欠ですが、そう簡単に分かりやすい表現が生み出せるものではありません。そこで大切になるのが「推敲」です。自分が納得できるまで繰り返すことで、少しずつ自分が求める表現に近づけることができます。社会人になっても重要な力ですので、大学院生のうちに培っておいて損はありません。

中菱エンジニアリング株式会社
航空宇宙事業部 研究試験部 空力・機器試験室 勤務
堀部 真司さん（機械工学専攻 2016年修了）

行動の選択肢が増え、より良い成果を得る

大学院の研究では、数値計算の結果が目標とした精度にいかに近づいたかを評価していました。もちろん未達成の時もありましたが、そこで終わりではありません。目標との差はどの程度か、計算時間はどれくらいか、他の研究結果と比べるとどうなのか等、様々な観点で分析することが求められます。このように多面的な観点で得られた結果を見ることで「複数の成果」という収穫に繋がり、次の行動に結びつけやすくなります。「多面的な見方」は、就職活動でも活かされましたし、社会人となった今、仕事の幅を広げるために大切だと感じています。

メルコ・パワー・システムズ株式会社
技術本部 技術部 ビジネスチーム１ 勤務
竹本 貴紀さん（情報・メディア工学専攻 2016年修了）

仲間とのやりとりの中に ヒントが眠っていることも

大学院の同期はそれぞれ別の研究をしていましたが、同じ研究室に所属しているのでテーマや内容は近いものがありました。そのためお互いに相談をしながら研究を進める仲の良い研究室で、誰かがうまく行っていない時は気分転換も兼ねて、行き詰っている部分を聞いては互いの悩みを共有したりしていました。他愛ない会話の何気ない一言がアプローチを変えるきっかけになることもあり、自分の研究テーマ以外にも広く興味を持ち、様々な立場の意見・視点に触れることが状況を打開する一手になることを実感しました。

三菱電機株式会社
系統変電システム製作所 技術開発部 大電力・機械技術課 勤務
木村　涼さん（電気・電子工学専攻 2016年修了）

手厚い指導はもちろん、 励ましや助言に支えられて

私は、大学院の研究室内に同期がいなかったため、先生とマンツーマンの環境で学ぶことができました。研究に関する手厚い指導はもとより、一息つくタイミングでお茶を飲みながら世間話をさせていただくなど、一人でも孤独を感じることなく過ごせたのは、他でもない先生のおかげだと感じています。先生には「結果を出すことはもちろん、そこに行きつくまでのプロセスも大切にしなさい」と教えていただきました。思うような結果が得られず、焦っている時こそプロセスを大切にしなければいけないという教えは、実社会でも折に触れ役立っています。

井村屋株式会社
生産管理部 SCMチーム 勤務
濱田　幸さん（生物応用化学専攻 2014年修了）

やる時はやる、遊ぶ時は遊ぶ すべてが“経験”になる

私がいた研究室はコアタイムとなる“出勤時間”が決まっていて、まるで仕事のようでした（笑）。でもその時間が終わったら思いっきり遊ぶというメリハリが利いていました。先生も運動が好きな方で、昼休みはバスケをしたり夏にはプールに入ったり。でも「やる時はちゃんとやらないとクビにするよ」と仰っていて、けじめを体現したような方でした。ずっと頑張ることはできないし、休まないと疲れてしまうし、そのバランスが重要なんです。居心地の良い研究室で、人生の根幹を学んだ時間だった気がします。

福井県立奥越明成高等学校 勤務
電気科科長
森田 康平さん（知能システム工学専攻 2013年修了）

あなたのやる気をしっかりサポート。

「家庭の事情を考えると大学院進学は…」なんて考える人も多いようですが、
大学院には、学部以上に経済的サポート態勢が充実しています。

授業料免除制度

経済的理由であきらめることはありません。

大学院の授業料は学部と同額の年額535,800円です。この金額を4月と10月に半期分（267,900円）ずつ納めることになっていますが、授業料免除の制度があります。

この制度は、経済的理由により授業料の納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる学生については、本人の申請に基づき審査機関で選考のうえ、授業料の全額あるいは半額が免除されるというものです。

また、授業料免除制度は、授業料の納付前6ヶ月以内に、学資をご負担頂いている方（学資負担者）がお亡くなりになった場合や、学生あるいは学資負担者が風水害等の災害を受けるなどといった特別な事情により授業料の納付が著しく困難になった場合にも適用されます。

平成28年度後期実績では、申請者159名のうち、70名が全額免除、82名が半額免除となり、9割の申請者が免除許可になりました。

前期・後期に各学部の掲示板及びWeb等にて説明会の開催日程の通知を掲示しますので、この制度の利用を考えている学生は必ず出席してください。

授業料免除制度についてのお問い合わせは、
学生支援センター内学生サービス課まで。

授業料
535,800円／年

4月納め	10月納め
267,900円	267,900円

全額免除 又は 半額免除

条　件

- 経済的理由により授業料の納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる学生
- 授業料の納付前6ヶ月以内に、学資をご負担頂いている方（学資負担者）が亡くなった場合
- 学生あるいは学資負担者が災害を受けるなどの特別な事情により、授業料の納付が困難になった場合

授業料免除状況

		博士前期					博士後期				
		学生数	申請数	免除適格者	免除許可者		学生数	申請者	免除適格者	免除許可者	
					全額免除	半額免除				全額免除	半額免除
28年度	前期	566	173	155	87	68	93	19	18	13	5
	後期	560	159	152	70	82	93	24	22	18	4
29年度	前期	593	175	142	98	44	89	26	22	18	4
	後期	578	151	144	78	66	87	22	21	17	4

奨学金制度

人物・学業共に優秀かつ健康であり、経済的理由により修学が困難と認められる者に対して、独立行政法人日本学生支援機構及び公益法人の奨学金等の奨学制度があります。

選考基準は学生本人の収入です。

(独)日本学生支援機構奨学金の貸与を受ける場合には、学生本人からの申請が必要です。選考等については、学生本人の収入(定職、アルバイト、父母等からの給付、その他奨学金等)及び学業成績を基に学内選考がなされ、(独)日本学生支援機構へ推薦された後、機構の審査により採用が決定します。

(独)日本学生支援機構奨学金のうち博士前期(修士)課程学生が貸与を受けられる金額は、無利子の第一種奨学金の場合月額で5万円又は8万8千円です。

また、有利子の第二種奨学金は、月額5万円、8万円、10万円、13万円、15万円の中から選択することが可能で、選考の基準をクリアすれば第一種奨学金と第二種奨学金の併用貸与を受けることもできます。

(独)日本学生支援機構奨学金の申請は、大学院へ進学する前に行う予約採用と4月に募集される在学採用があります。予約採用は、4月から大学院への入学を希望している学生を対象に前年の秋頃に募集を行い、在学採用は入学後の4月に募集を行います。

茨木さん

公益法人の奨学金等も含め、奨学金関係の情報は大学掲示板で学生の皆さんに案内します。学生支援センター内の学生サービス課までお気軽にお問い合わせください。

奨学金を受けるまでの流れ

(無利子)第一種奨学金
50,000円／月
88,000円／月

(有利子)第二種奨学金
50,000円／月
80,000円／月
100,000円／月
130,000円／月
150,000円／月

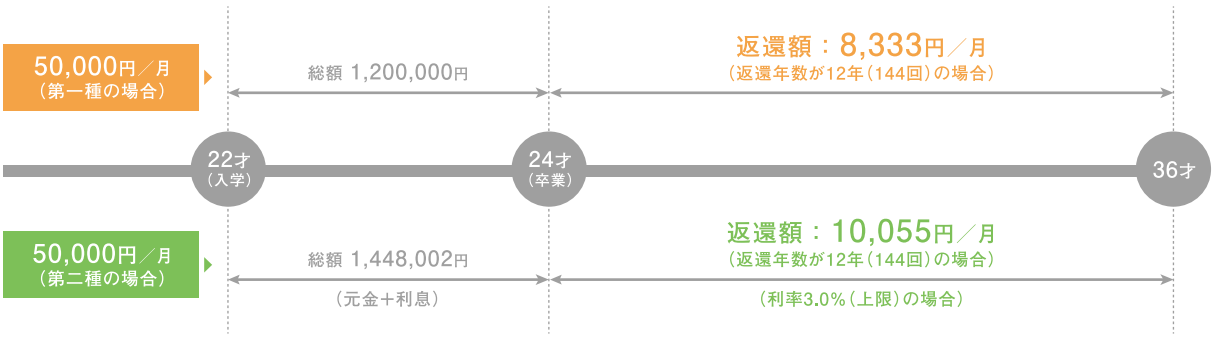
返還は月々1万円程度から。

(独)日本学生支援機構奨学金は、大学院を卒業してから返還していただく貸与奨学金です。返還については、例えば、月額5万円を2年間借りた場合、返還年数を12年として利息を含めても、月々1万円程度の金額で返還が可能です。

特に優れた業績による返還免除。

大学院において第一種奨学金(無利子)の貸与を受け、返還免除の申請をした結果、在学中に「特に優れた業績」をあげた者として、日本学生支援機構から認定された場合には、貸与期間終了時に奨学金の全部または一部の返還が免除される制度があります。

2年間借りた場合の奨学金返還(月賦返還の例)



TA制度

より深みのある学びのために。

TAとは？ ティーチング・アシスタント（Teaching Assistant）の略。
教員の指導を受けて、教育の補助業務（学生実験の指導など）を行う大学院生のこと。

TAに採用された学生は、教員の指導のもと学部学生をサポートしつつ、教えることを通じて学び、指導者としてのトレーニングを積み、主体的に学ぶ経験ができます。また、従事時間に応じて手当（博士前期課程学生時給1,100円、博士後期課程学生時給1,300円）が支給されますので、学生生活の支援にも繋がります。手当は多くはありませんが、自分自身の研究にも関連した業務も多く、大変有意義なアルバイトとも言えるでしょう。

また、博士後期課程学生になると、RA（Research Assistant）制度というものもあります。RAに採用された学生は、プロジェクト研究等に研究補助者として参画し、自身の研究と密接に関わる業務に携わり、研究遂行能力を高められます。また、勤務時間に応じて手当（時給1,300円）が支給されます。

TA、RA制度について詳しく知りたい人は、工学部支援室までお問い合せください。

利用者の声 「指導力が向上した。」「実験の理解が深まった。」「学内での縦の繋がりを持つ機会ができた。」「給与面での支援がよかった。」「大人数の前で話す練習になった。」「授業で教える事で復習になった。」「実験の準備等における要領や確認の大切さを学んだ。」

教務情報

大学院博士前期課程では、学生毎にPOSコミティ（Program of Study Committee）を設け集団指導体制をとっており、①カリキュラムのオーダーメイド化 ②プロジェクト型学習の推進といった「学生の個性に応じた総合力を育む大学院教育」を実施しています。

【履修・成績・修了関係】
教務課教務第一係では、授業に関すること、履修に関する相談等に応じています。大学院学生便覧に掲載の教育課程(カリキュラム)について、履修方法や単位修得等わからないことがあれば、いつでもお気軽にお尋ねください。

留学情報

【福井大学生の海外留学】
大学の留学制度には、主に①短期海外研修プログラム、②交換留学の2つがあります。留学先での授業料免除、各種奨学金の受給や単位付与の可能性があるほか、出発前から帰国後まで様々なサポートを受けることができます。

海外留学の情報や相談、外国人留学生の受け入れについては国際課までお問い合わせください。
▼ホームページ
https://www.u-fukui.ac.jp/international/

●短期海外研修プログラム

海外の大学等に1週間から3か月程度留学し、語学研修、文化体験や学生交流、フィールドワーク、専門分野の講義の受講、学会発表や研究交流などを行います。多様な渡航先・研修内容から、各学生の目的や学習段階に合ったプログラムを選択して参加することができます。

体験談
中国の天津工業大学にて約10日間、英語での研究や実験を行いました。現地の人の日本人とは異なる研究に取り組む姿勢に、刺激を受け、今後の研究や英語学習への意欲が高まりました。

●交換留学

半年から1年間、福井大学の学術交流協定校において、現地学生とともに正規開講科目の履修や研究、語学集中コースの受講等を行います。留学中も本学に在籍することで、派遣先大学における授業料が不徴収となるほか、留学期間は修了年限に含むことができます。

体験談
専門知識や技能をさらに高めるために、米国のフィンドレー大学に留学しています。積極的な授業風景や、人々が自分の考えを示すことを非常にポジティブに捉えている様子が印象的です。

【外国人留学生の受け入れ】
福井大学では外国人留学生の受入れを積極的に行っています。2018年5月1日現在、24ヶ国・地域214名の留学生が福井大学で学んでいます。留学生がスムーズに学生生活を送れるよう、渡日直後・帰国前オリエンテーション実施の他、在留資格に関する手続き、奨学金申請、住居関係の手続きなどの補助を行っています。また、レベル別の日本語授業の開講など、充実した日本語学習環境を提供しています。

大学院というアドバンテージを活かすために。

最先端の知識と経験が要求される工学分野では、
博士前期（修士）課程まで含めた６年間の教育を受けた人材が求められています。
就職の際にも、学部卒よりも大学院卒の方が一般的には有利です。
また、同じ企業に就職しても、学部卒よりワンランク上の仕事を任される場合が多いでしょう。
工学研究科では、各専攻に就職担当の教員がおり、みなさんの相談に真剣に対応しています。
もちろん、大学院生の場合、指導教員に相談してみるのも一案でしょう。
福井大学では、「キャリア支援室」という強い味方もいます。
キャリア支援室では下記のような支援を行っています。

キャリア支援室の支援内容

就職情報の提供

企業などからの求人情報や就職関連本などを揃えたキャリア支援室で、自由に情報を入手できます。また、本学に対する企業などからの求人情報をデータベース化し、PC、スマートフォンのweb上から閲覧できる「キャリアサポートシステム」を構築しています。面談等の予約申込を始め、就職ガイダンスの録画映像もこのシステムを通して配信しています。

就職ガイダンスの開催

年間60回以上開催する就職ガイダンスでは、就職支援の専門家や先輩方による各種講演会を行い、就職活動に慣れない学生の不安解消に努めています。

キャリア相談

経験豊かなキャリアアドバイザーや就職担当教員が、就職活動の悩みについて個別相談に応じています。

就職についてのお問い合わせは、
キャリア支援室までお気軽にどうぞ。

模擬面接

キャリアカウンセラーによる模擬面接を毎日実施しています（要予約）。ここで面接時のマナーや態度、発言内容に対する指導・助言を行います。教員、公務員希望者にも対応します。

企業説明会

企業の情報収集やマッチングの機会として、学内合同企業説明会、学内個別企業説明会を開催しています。平成30年3月の合同企業説明会では、4日間にわたり、約480社の企業が参加。また、学内個別企業説明会は1年中開催しており、企業との出会いの場を通年設けています。

就職支援 10連覇

大学通信の平成29年度調査による「全国大学実就職率ランキング」において、
複数学部を有する卒業生1,000人以上の国立大学で10年連続1位となりました。

入試について

「大学院、面白そうだね。」と思っている人たちのために、大学院入試について説明します。
大学院は興味のあるモノをさらに探究できる場です。
福井大学工学研究科には、工学系のほぼ全分野にわたり様々な研究を行っている先生方がいます。自分が研究したい分野が決定したら、事前にその分野の先生にコンタクトをとってください。
「興味のあるモノ」を先生方と話すことで、より具体的な研究・進学のアドバイスが得られると思います。
先生の研究分野については、本学ホームページの「教育研究者検索」で確認してください。
学部学生時代の成績が優秀である場合、「推薦選抜」で入学する方法があります。あなたが本学の学生なら、まずは、助言教員や指導教員に相談してください。また、社会人や外国人留学生の場合には、特別選抜で入学する方法もあります。
大学院入試の「過去問」については、本学生協2F事務室（0776-21-2956 office@fu-coop.or.jp）へお問い合わせください。

入試についてのお問い合わせは、
アドミッションセンター2階、入試課まで。

	博士前期課程		博士後期課程（10月入学/4月入学）
	推薦選抜	一般選抜／社会人特別選抜／外国人留学生特別選抜	一般選抜／社会人特別選抜／外国人留学生特別選抜
募集要項公表	5月中旬		
募集人員	全10専攻で合計253名		22名
出願期間	6月中旬	8月中旬	8月中旬
選抜日	6月下旬	8月下旬	9月上旬
合格者発表	選抜日後約2週間		選抜日後約2週間
入学手続期間	11月中旬		10月入学:9月下旬／4月入学:11月中旬

出願資格など、詳しくは、各募集要項でご確認ください。
本学ホームページ（**https://www.u-fukui.ac.jp**）の「入試情報」には、入試に関するお知らせを掲載している場合があるので、ご確認ください。

学生相談

大学院では研究が中心となり、学部時代とは大きく異なる学生生活になってきます。長時間の実験や学会発表など、肉体的・精神的負担も大きくなりがちで、それに伴いさまざまな悩みを抱え込む学生さんも少なくありません。小さなことでも自分ひとりで抱え込まずに誰かに相談することが大事であり、相談することで、自分では気づかなかった解決策が見いだせる場合もあります。学生総合相談室では、学業のこと、友人や教員などとの人間関係、将来のことなど、さまざまな相談に常駐しているカウンセラーが対応します。
何か悩みごとがあれば、どんな小さなことでもかまいませんので、気軽に学生総合相談室を利用してください。私たちが悩みの解決策を一緒に考えます。

学生生活についての相談・
お問い合わせは、学生総合相談室まで。
TEL:0776-27-9986、9987
E-Mail:g-soudan@ad.u-fukui.ac.jp

障がい学生支援

障がいのあるなどの理由により、修学上何らかの支援が必要な学生の相談に応じ、合理的配慮の提供に向けた調整を行っています。修学面や学生生活面において支障を感じたり、支援を受けたい場合は、右記までご相談ください。

保健管理センター TEL:0776-27-8513
学生総合相談室 TEL:0776-27-9986、9987

Mechanical Engineering

機械工学専攻

機械工学は、科学技術の創造に貢献する基盤的な学問分野です。生産活動の根幹を担う機械材料の強度特性や機能構造、エネルギーの高効率利用、流体システムやエネルギー変換機器の開発及び設計、機械システムの動特性解析及び自動制御理論と設計手法の開発、情報処理技術や知識工学の適用による自動化された高信頼性、高機能機械システムの創成に関する教育・研究を行っています。

Masaaki Ohtsu

大津　雅亮〔教授〕

機能創成工学分野

- 鉄やアルミニウム、チタン、マグネシウムなどの金属に力を加えて変形させて自動車や眼鏡などの金属部品を製造する塑性加工について研究しています

Masato Okada

岡田　将人〔准教授〕

機能創成工学分野

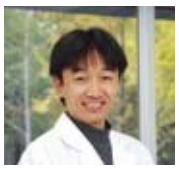
- 超硬合金などの難削材加工や金属表面の平滑化と改質層生成を同時に実現するバニシング加工の研究
- 皆さんと共に先端的な技術開発ができる日を楽しみにしています

Noritake Hiyoshi

旭吉　雅健〔准教授〕

機能創成工学分野

- はんだや鉄鋼材料のクリープ疲労寿命評価に関する研究
- ユニークな実験研究による貴重なデータを蓄積して、世の中に還元します



Tomomi Honda

本田　知己〔准教授〕

機能創成工学分野

- 機能表面設計、ナノ・マイクロトライボロジー、潤滑油劣化診断、新材料の摩擦摩耗解析、摩擦制御
- 自分の能力に気づき、それを高める楽しい研究がここにあります

Xiao-Wen Lei

雷　霄雯〔講師〕

機能創成工学分野

- マクロな材料はナノスケールで見ると原子や分子などミクロ構造で構成されている。理論・計算によりミクロな構造が力学特性や機能を生み出すメカニズムに関する研究を行なうことで、新しい機能を設計するための知見の獲得を目的とする

Takuya Miura

三浦　拓也〔助教〕

機能創成工学分野

- 摩擦攪拌接合やアーク溶接といった、主に金属材料を対象とした溶接・接合技術の研究を行っています

Junichi Ohta

太田　淳一〔教授〕

熱流体システム分野

- 二相流ー般と超音波照射が液中の粒子やマイクロバブルに及ぼす影響と音響流について研究している。新たな現象を明らかにし、役に立つ学術的知見を得るようにしている

Niro Nagai

永井　二郎〔教授〕

熱流体システム分野

- ヒートパイプを使って電気を使わず冷暖房する装置の開発やお湯が沸く仕組みを研究
- 「熱」エネルギーの有効利用が世界を救うことを信じて

Takashi Ohta

太田　貴士〔准教授〕

熱流体システム分野

- 数値流体力学、乱流の解析と制御、数値シミュレーションによって、複雑な流体現象のメカニズムを解明し、現象の予測と制御を実現するための基礎的な研究

Yasuyuki Sakai

酒井　康行〔准教授〕

熱流体システム分野

- 内燃機関の燃焼化学

Futoshi Tanaka

田中　太〔准教授〕

熱流体システム分野

- 散水設備（例：スプリンクラー）による火災抑制性能と閉空間（例：トンネル）火災時における煙流動現象の解明に取り組んでいます

Akinori Fukushima

福島　啓悟〔講師〕

熱流体システム分野

- 数値計算を用いた包括的な伝熱現象の解析を行っている。現在は主に、分子シミュレーション及び電子状態計算を用いたナノ構造体の特性解析を行っている

Fumiyasu Kuratani

鞍谷　文保〔教授〕

システム制御工学分野

- 機械、自動車、楽器の振動・音の発生機構や振動・騒音を低減するための減衰発生機構の解明に取り組んでいます
- 「継続は力なり」を信じて

Yasuhiro Yamada

山田　泰弘〔教授〕

システム制御工学分野

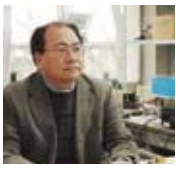
- 機械システム、生産システム

Masayuki Kawai

川井　昌之〔准教授〕

システム制御工学分野

- 各種ロボットの研究



Ryoji Kawatani

川谷　亮治〔准教授〕

システム制御工学分野

- 不安定メカニカルシステムの安定化制御、柔軟構造物のロバスト振動制御、自律移動型ロボットの制御、メカトロニクス系のコンピュータ制御

Masanori Shintani

新谷　真功〔准教授〕

システム制御工学分野

- 美術品、医療機器等を地震から守る免震装置を開発して、youtubeに公開しています
- 夢を持って行動し、社会に貢献する人になってください

Tatsuya Yoshida

吉田　達哉〔講師〕

システム制御工学分野

- 建設機械の作業シュミレーションによる自動化の研究、接触を伴う構造物の動的応答解析

Electrical and Electronics Engineering

電気・電子工学専攻

電気・電子工学は産業技術の基盤技術として、高度情報化社会をハード、ソフトの両面から牽引する中核的技術として発展しています。本専攻は、(1)先端的材料・デバイス分野、(2)電力発生・パワーエレクトロニクス・電力システム分野、(3)システム科学・情報通信分野、を主要な教育研究分野として位置づけ、高度で複雑化するニーズに的確に応える人材の養成に努めています。

Tadashi Kanabe

金邉　忠〔教授〕

電子物性分野

- 高出力・超高強度レーザー開発やレーザーエネルギー利用、宇宙太陽光発電用の高効率・高出力レーザーの設計・開発、核融合用レーザーの設計開発

Masaaki Kuzuhara

葛原　正明〔教授〕

電子物性分野

- 地球にやさしくタフな半導体である窒化物半導体の実用化を目指した研究を行っています
- 省エネ技術こそ世界に誇れる国産技術の原動力です

Kenji Shiojima

塩島　謙次〔教授〕

電子物性分野

- 半導体物性、電極界面の評価、新機能半導体デバイスの作製
- 半導体の謎解きにチャレンジしてみませんか

Kazutoshi Fukui

福井　一俊〔教授〕

電子物性分野

- バンドギャップの広い半導体は紫外線を出す発光ダイオードなどに使われます。そういう半導体の光学的な物性を調べています

Sakae Kawato

川戸　栄〔准教授〕

電子物性分野

- レーザーを作って、いろいろな分野へ応用する研究をしています
- やりたいことを見つけるため、いろいろな経験をしましょう

Kohji Yamamoto

山本　晃司〔准教授〕

電子物性分野

- 携帯電話で使っている電波の1000倍の周波数の電波を使った研究を行っています
- これからの高周波数化へ向かう社会の先端を目指そう

Hisao Taoka

田岡　久雄〔教授〕

エネルギー工学分野

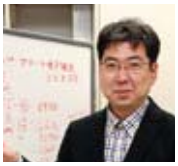
- 太陽光発電や風力発電、電気自動車が繋がる新しい電力システムの解析制御運用技術の研究
- 勉強を楽しく!研究を楽しく!人生を楽しく!

Akihiro Hashimoto

橋本　明弘〔教授〕

エネルギー工学分野

- 高効率太陽電池用高品質半導体結晶成長の研究及び次世代電子材料であるナノカーボン系材料の研究を行なっています。ナノワールドの匠です



Takayuki Makino

牧野　哲征〔准教授〕

エネルギー工学分野

- 新エネルギー科学に関する分光学的研究を行っている。環境調和性を留意しつつ、エネルギー問題解決に資する新材料や新分光評価法を開発している

Atsumi Ohara

小原　敦美〔教授〕

システム工学分野

- ロボット・ロケットの軌道制御、電気自動車のモータ制御などの身近な理工学分野でも有用なシステム制御と最適化に関する研究を主に行っています

Shoichi Hirose

廣瀬　勝一〔教授〕

システム工学分野

- 安心して利用できる安全な情報通信を実現するための暗号と情報セキュリティに関する研究をしています

Ronglong Wang

王　栄龍〔准教授〕

システム工学分野

- ソフトコンピューティング、最適化問題の近似アルゴリズム、画像処理

Fuminori Sakaguchi

坂口　文則〔准教授〕

システム工学分野

- 微分方程式の整数型解法、作用素代数の工学への応用、局在型の波束と微分演算子の関係、統計的信号処理

Seiichiro Moro

茂呂 征一郎〔准教授〕

システム工学分野

- 結合非線形発振系に見られる諸現象の解析とその応用
- 大学院では知識の吸収だけでなく自ら探求することが重要です

Hidehiko Tanabe

田邉　英彦〔助授〕

システム工学分野

- インターネットや携帯電話などに用いられる通信システムにおいて、雑音等によって生じる誤りを訂正・検出する研究を行っています

Information Science

情報・メディア工学専攻

本専攻は、情報、通信、メディア工学の最新の専門知識を体系的に理解し、国内外における自由競争の環境下で、問題を自ら発掘・提起し、独創的なアイデアをもって、解決を図ることのできる人材の育成を目標にしています。さらに大学院修了後も研究や学究の分野で、リーダシップを発揮できるような高度の専門人材を、教員が一丸となって育成します。

Shogo Tokai

東海　彰吾〔教授〕

情報・メディア工学分野

- 複数のビデオカメラによる多視点撮影映像群を用いた動的な3次元状況の理解と映像化

Mitoshi Fujimoto

藤元　美俊〔教授〕

情報・メディア工学分野

- 無線LAN、地上デジ、携帯電話など、電波による通信を快適にするための研究
- 好きこそものの上手なれ。好きなことを職業にしましょう

Yohsuke Hosoda

細田　陽介〔教授〕

情報・メディア工学分野

- 線形悪条件問題、不適切問題、画像復元問題、数値解析

Shinichiro Mori

森　眞一郎〔教授〕

情報・メディア工学分野

- スーパーコンピュータ、実時間シミュレーション、可視化、並列処理、組込みシステム
- 高性能なコンピュータを創る醍醐味を一緒に体験しましょう

Tomoyuki Yamakami

山上　智幸〔教授〕

情報・メディア工学分野

- 計算量理論、量子計算、暗号、ゲーム理論、論理学、離散数学
- 才能に溢れた有望な若い学生を広く募集しています

Norifumi Yamada

山田　徳史〔教授〕

情報・メディア工学分野

- ミクロな世界では、壁にぶつかったボールが壁をすり抜ける、という奇妙な現象が起こります。この「トンネル現象」の可視化などに取り組んでいます

Toshiyuki Yoshida

吉田　俊之〔教授〕

情報・メディア工学分野

- 画像処理・信号処理、特に画像符号化、画像解析、3次元画像計測

Ken-ichi Iwata

岩田　賢一〔准教授〕

情報・メディア工学分野

- 情報通信システムにおける情報源符号、通信路符号、多端子情報理論における理論的限界を求めるとともにそれを実現する符号化・復号法

Takuji Tachibana

橘　拓至〔准教授〕

情報・メディア工学分野

- 全く新しい「新世代」の通信ネットワーク技術について研究します。安全・安心、SNS、有無線仮想化、データセンター、等がキーワードです

Ken Higuchi

樋口　健〔准教授〕

情報・メディア工学分野

- 早くて安いをモットーに、たくさんのデータを効率的に処理するためのデータベースの研究をしています

Shinji Fukuma

福間　慎治〔准教授〕

情報・メディア工学分野

- ディジタル信号処理、画像・信号処理技術の産業応用（繊維検査装置、脳神経外科手術支援モニタリングシステム、遠隔講義支援システムの開発）

Mikio Mori

森　幹男〔准教授〕

情報・メディア工学分野

- 音声・聴覚・音楽情報処理（骨導音の音質改善・補聴器への応用、口笛の発音原理の解明・演奏評価など）

Daisuke Ishii

石井　大輔〔講師〕

情報・メディア工学分野

- 物理環境と結びついた情報システムの信頼性を高めることを目標に、プログラミング言語・形式手法・探索アルゴリズム・数値計算などの技術について研究しています

Tatsuhito Hasegawa

長谷川 達人〔講師〕

情報・メディア工学分野

- スマートフォンやウェアラブルデバイスの実生活への応用に関する研究をしています。その過程で、多種のセンサや機械学習等の技術を取り扱っています

Zhang Chao

張　潮〔助教〕

情報・メディア工学分野

- 本研究室では、カメラからの画像情報を基に、人工知能や進化計算を用いたコンピュータビジョン、パターン認識に関する研究を行っています

Architecture and Civil Engineering

建築建設工学専攻

建築・都市・地域・国土を対象に、理想的な生活空間を自然科学・芸術・技術・人文社会学の視点から探求します。環境構造工学分野では、安全な建築物・土木構造物の実現に向け、地震・雪などに対する構造要素及び構造システムの弾塑性挙動を教育研究し、都市建築設計分野では、建築・都市空間における心理・生理・人間行動・社会生活などを軸に、社会科学・数理科学・人文科学の観点から研究を行います。

Koichiro Ishikawa

石川 浩一郎〔教授〕

環境構造工学分野
- 金属系及び木質系建築構造物の応答性能に基づく耐震性能評価
- 空間構造のアルバム（www.aloss.jp）をご覧ください

Masato Iso

磯 雅人〔教授〕

環境構造工学分野
- 鉄筋コンクリート造建物の構造性能評価、損傷制御、補修・補強、リサイクル、工構法の開発
- 建築は奥深い分野です。建築をぜひ愛して下さい

Keisuke Kojima

小嶋 啓介〔教授〕

環境構造工学分野
- 地形や地下構造と地震被害には密接な関係があります。地表面から地下構造を探査し、自然災害の被害低減に役立てる研究をしています

Keiichi Inoue

井上 圭一〔准教授〕

環境構造工学分野
- 建物の地震応答性状に関する解析的研究、建物の地震応答低減を目指した構造システムの開発

Keigo Suzuki

鈴木 啓悟〔准教授〕

環境構造工学分野
- 構造物の安全性を判断するためのモニタリング技術の研究や、超音波探傷手法による目視困難な部位の可視化に取り組んでいます

Akihiro Fujimoto

藤本 明宏〔講師〕

環境構造工学分野
- 専門は地盤工学ですが、雪や土壌の熱・水分移動を得意とします。積雪地における斜面や盛土の安定問題や道路の雪氷問題について研究をしています

Ayato Honma

本間 礼人〔講師〕

環境構造工学分野
- コンクリート工事の施工改善、廃材のリサイクル研究等を行っています

Hiroaki Terasaki

寺﨑 寛章〔助教〕

環境構造工学分野
- 専門は環境水理学、水文学です。研究は多岐にわたり、津波後の土壌塩害調査やバングラデシュの飲み水支援など、国内外を問わずフィールドワークを得意としています

Yukio Akashi

明石 行生〔教授〕

都市建築設計分野
- ヒトと光の関わりを探究し、人と地球にやさしいあかりを提案します
- 研究の合間には、イルミネーション・イベントを楽しみましょう

Shinji Nojima

野嶋 慎二〔教授〕

都市建築設計分野
- 気持ちの良い場所づくりをテーマに建築や街路やコミュニティスペースなどのアーバンデザインの実施や持続可能なまちづくりの研究をしています

Yoshimi Kawamoto

川本 義海〔准教授〕

都市建築設計分野
- 人と環境に優しく、かつ持続可能な地域社会の構築を支える交通のあり方、魅力的な都市空間づくりを実現するための、さまざまな計画思想やその具体化手法について、産学官民が共働して取り組む教育研究活動を行っています

Yoshinobu Kikuchi

菊地 吉信〔准教授〕

都市建築設計分野
- ハウジング、住環境地計画
- 住みよい住環境を実現するための手法についての研究と実践的活動を行っています

Kumiko kiso

木曽 久美子〔准教授〕

都市建築設計分野
- 人間行動を基準とした建築物と建築物を取り囲む都市空間のデザインをテーマとしています。人間行動のシミュレーションや都市空間のデザインシミュレーション等も行いながら研究を展開しています

Yoko Harada

原田 陽子〔准教授〕

都市建築設計分野
- 持続可能な市民参加の都市再生や地域資源を活かしたまちづくり・環境デザインについて、研究・活動を行っています

Masato Nishimoto

西本 雅人〔講師〕

都市建築設計分野
- 保育園、幼稚園、小中学校、図書館など、子どもが使う施設を対象に子どもたちの活動がより活発になるために、空間の使いこなし方について研究しています。また、それらの施設の建築設計にも取り組んでいます

Yoshihisa Momoi

桃井 良尚〔講師〕

都市建築設計分野
- 低環境負荷で、健康かつ快適な居住環境を実現するための研究を行っています。特に、気流利用空調、除湿空調、高効率換気空調、自然換気をテーマとしています

Takeharu Yamada

山田 岳晴〔講師〕

都市建築設計分野
- 建築のデザイン・復元・設計を研究。専門は日本建築史・文化財学です。時代は竪穴住居から近代建築まで、神社・寺院・城・茶室・民家など、世界に誇る日本建築が対象です

Materials Science and Engineering

材料開発工学専攻

本専攻は、環境と調和した豊かな社会に貢献する高性能・高機能材料の開発を主体的に行える高度専門技術者・研究者を養成します。化学と物理を基礎として有機・無機・高分子材料の合成、構造、機能、製造プロセスの系統的・総合的な能力の養成、さらに、材料開発技術に関わる最先端の研究に主体的に携わる経験を通じて、高い倫理観とチャレンジ精神を兼備した人材を育成します。

Tomohiro Uchimura

内村　智博〔教授〕

エネルギー・物質変換化学分野
- 各種材料・環境試料の高精度分析法の開発、反応状態解析法の開発
- 予想外の結果を楽しもう

Yuji Tokunaga

徳永　雄次〔教授〕

エネルギー・物質変換化学分野
- 分子認識のためのナノ空間設計とその創製

Tamotsu Hashimoto

橋本　保〔教授〕

エネルギー・物質変換化学分野
- 精密重合による新構造・高性能高分子の合成、分解・リサイクルが可能な高分子材料の開発
- 資源循環型社会の形成に材料開発の分野からアプローチします

Susumu Yonezawa

米沢　晋〔教授〕

エネルギー・物質変換化学分野
（産学官連携本部）
- 「フッ素」を用いた材料開発を行っています。安全なリチウム電池をはじめ、ニッケル水素電池、燃料電池などの新しい材料を創製しています
- 皆さんは未来を変える「力」を持っています

Jea-Ho KIM

金　在虎〔准教授〕

エネルギー・物質変換化学分野
- 無機材料のうち含フッ素および含炭素材料（高機能性炭素材料）について電気化学的デバイス等への応用を中心として研究をしています
- 自分の夢を持ちましょう!

Toshikazu Sakaguchi

阪口　壽一〔准教授〕

エネルギー・物質変換化学分野
- 空気中から地球温暖化ガスや酸素を取り出すための分離膜材料の研究。ディスプレイや照明などに利用される新しい発光高分子材料の研究

Takashi Okada

岡田　敬志〔講師〕

エネルギー・物質変換化学分野
- 高温融体を反応場とした分離・合成・表面処理に関する研究を行っています。それによる、貴金属回収や環境浄化を目的としたリサイクル材料・機能性材料の開発を目指しています

Masaya Naito

内藤　順也〔助教〕

エネルギー・物質変換化学分野
- 望みの物質を創造する合成化学の技術を用いて、音や圧力、光、熱などの外部刺激により運動性や集合能を制御できる分子の創出に取り組んでいます

Takashi Sasaki

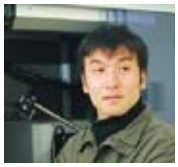
佐々木　隆〔教授〕

インテリジェント材料分野
- ナノサイズの高分子材料の合成とそのガラス転移ダイナミックス、結晶化、融解挙動の研究
- 研究を通じて科学を楽しんでください

Yutaka Tanaka

田中　穣〔准教授〕

インテリジェント材料分野
- コロイドのゾル―ゲル転移をレオロジーの観点から対象にして新しい材料をつくっています。特にレオロジーという聞きなれないところにこだわっています



Satoshi Irie

入江　聡〔准教授〕

インテリジェント材料分野
- 透過電子顕微鏡法などを用いた有機分子薄膜や高分子薄膜の構造形成過程に関する研究

Hidetaka Tobita

飛田　英孝〔教授〕

生産加工プロセス分野
- 高分子の合成と構造の橋渡しをする反応工学的研究が専門です
- 新発見を通じて自分の世界観が変わる「目から鱗」の体験はヤミツキになります

Kiyoshi Suzuki

鈴木　清〔准教授〕

生産加工プロセス分野
- 乳化重合等の不均一系ラジカル重合の機構解明&高分子微粒子調製
- 「学ぶ」「考える」「創る」「反響を見る」の4大快楽を満喫しよう!

Applied Chemistry and Biotechnology

生物応用化学専攻

本専攻は、自然現象を分子レベルで解明し、その基礎の上に立って様々な新しい化合物を作りだした「化学」と、生命現象を分子の機能として理解する「生物化学」の融合を図り、新時代の化学教育と研究体制を整えています。人類の健やかな生活と持続可能で豊かな社会の実現に貢献する教育・研究を推進し、高い倫理観と高度な知識・技術を有した研究者、高度専門技術者を養成します。

Hiroyuki Uchida

内田　博之〔教授〕

生物応用化学分野

- 微生物、酸素のホルムアルデヒドや内分泌撹乱物質などの環境汚染物質分解・除去への応用

Masaya Oki

沖　昌也〔教授〕

生物応用化学分野

- DNA配列に依存しない遺伝子発現調節機構「エピジェネティクス」の研究を行っています。新しい研究分野でまだまだ謎だらけです

Akihiko Sakurai

櫻井　明彦〔教授〕

生物応用化学分野

- 微生物や酸素を用いた環境浄化システムの開発、新型バイオリアクターの開発、未利用資源を利用した有用物質生産、担子菌による生理活性物質の生産

Shiro Maeda

前田　史郎〔教授〕

生物応用化学分野

- 微生物産生ポリアミノ酸をベースにした環境に優しい機能性高分子材料の開発・固体核磁気共鳴分光法を用いた静的・動的分子構造解析

Yasushi Maeda

前田　寧〔教授〕

生物応用化学分野

- 「生物にならったかしこい高分子」を作り、その構造と機能を光を使った測定を通して解明していくことを目標にして研究を進めています

Yoshiyuki Konishi

小西　慶幸〔准教授〕

生物応用化学分野

- 脳神経回路がどのようなシステムによって形成されるのかを、分子や細胞のレベルで明らかにするとともに、これらを人為的に制御することを目指しています

Takenori Satomura

里村　武範〔准教授〕

生物応用化学分野

- 極限環境に生息する微生物が生産する酸化還元酵素の機能解析とその応用方法の開発

Shinji Sugihara

杉原　伸治〔准教授〕

生物応用化学分野

- 新しい精密（リビング）重合システムの開発, 外部刺激応答性ポリマーの合成と応用、自己組織化による種々のナノ集合体合成

Ichiro Takahashi

髙橋　一朗〔准教授〕

生物応用化学分野

- 超分子による生理活性物質の捕捉、弱プロトン酸を補助剤とする反応、環境低負荷触媒の開発
- 流行に囚われることなくいつも三手先を読めるように!

Toru Takahashi

髙橋　透〔准教授〕

生物応用化学分野

- 専門は分析化学です。化学システムを駆使し、物質の“量”的情報だけではなく“質”的情報を提供するための新しい計測法を探求しています

Satoshi Terada

寺田　聡〔准教授〕

生物応用化学分野

- ヒトなど高等生物の細胞を活用します。細胞を用いてバイオ医薬品が生産されたり、再生医療も実施されますが、その活用技術を開発しています

Yasuharu Yoshimi

吉見　泰治〔准教授〕

生物応用化学分野

- 紫外光を用いた環境に優しい新規な有機反応の開発、およびその光反応を利用したペプチドなどの生理活性物質の直接的な化学変換による高機能化

Yu Suzuki

鈴木　悠〔講師〕

生物応用化学分野

- シルクなどの天然高分子について、立体構造を調べ機能との関係について研究しています

物理工学専攻

コンピュータや携帯電話、先端医療や宇宙開発に至る科学技術の多くは、物理学を基礎に生まれました。本専攻では、科学技術の発展に重要な役割を担う物理学について、素粒子物理学、宇宙論、原子核物理学、数理科学、磁性物理学、光物性、量子光学、分子科学、プラズマ物理学、遠赤外線工学など幅広い分野の研究に取り組み、科学技術発展に貢献する人材の育成に努めます。

Nobuharu Onoda

小野田 信春〔教授〕

数理・量子科学分野

- 数学の研究をしています。専門は可換環論です。可換環は代数系の一種ですが、幾何学とも強く関係します。解明したい問題も多く、興味が尽きません

Takeo Takagi

高木　丈夫〔教授〕

数理・量子科学分野

- 低温物理学（絶対温度1K以下で起こる現象）の研究をしています
- 学問的な好奇心が原動力です。それを失くさないでください

Naoki Tajima

田嶋　直樹〔教授〕

数理・量子科学分野

- 核子の有限量子多体系として見た原子核の理論的研究、主として平均場模型に基づく研究
- 人の説明を鵜呑みにせず、必ず自分なりに考えたいものです

Takaaki Hashimoto

橋本　貴明〔教授〕

数理・量子科学分野

- 物質の最小単位である素粒子に関連した研究をしています。確率論的量子場の理論、量子力学の幾何学的側面

Osami Yasukura

保倉　理美〔教授〕

数理・量子科学分野

- リー群論。微分幾何学。特に、単純リー代数の幾何学的特徴付け

Yoshiyuki Koga

古閑　義之〔准教授〕

数理・量子科学分野

- 専門は数学で超リー代数という代数系が研究テーマです。超リー代数は物理とも関連する興味深い研究対象ですが、多くの問題が未解決です

Hikomitsu Kikuchi

菊池　彦光〔教授〕

物性・電磁物理分野

- 低次元反強磁性体における量子効果、スピンフラストレート磁性体の磁性

Mitsutaka Kumakura

熊倉　光孝〔教授〕

物性・電磁物理分野

- レーザー冷却を始めとする原子・ナノ粒子の運動状態および内部状態の光マニピュレーション

Takuo Yoshida

吉田　拓生〔教授〕

物性・電磁物理分野

- 高エネルギー粒子加速器を用いた素粒子実験や宇宙背景ニュートリノ探索実験
- 大学院は魅力ある研究テーマの宝庫です

Yoshinori Tatematsu

立松　芳典〔教授〕

物性・電磁物理分野

- 高出力サブミリ波ジャイロトロン及び伝送系システムの開発

Masahiko Tani

谷　正彦〔教授〕

物性・電磁物理分野

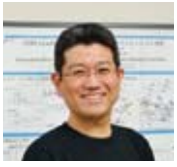
- テラヘルツ電磁波の発生と検出法の開発、テラヘルツ時間領域分光法、テラヘルツ電磁波の各種計測応用、テラヘルツ帯コヒーレントアンチストークスラマン分光

Seitaro Mitsudo

光藤 誠太郎〔教授〕

物性・電磁物理分野

- 遠赤外光源ジャイロトロンの開発とその物性研究への応用



Takayuki Asano

浅野　貴行〔准教授〕

物性・電磁物理分野

- 量子スピン系及び幾何学的競合系の磁気的性質や新規機能性材料の探索合成

Izumi Ogawa

小川　泉〔准教授〕

物性・電磁物理分野

- 放射線測定を用いた宇宙・素粒子・原子核研究
- 二重ベータ崩壊・ダークマター探索など放射線を利用して宇宙の謎を探りましょう!

Escaño Mary Clare Sison

エスカニョ メアリ クレア スイソン〔准教授〕

物性・電磁物理分野

- 第一原理計算法による磁気システムの構造、磁気相転移、輸送特性を研究しています

Yutaka Fujii

藤井　裕〔准教授〕

物性・電磁物理分野

- 極低温・強磁場という極限環境下で現れる物質の磁気的性質を磁気共鳴測定等により研究しています
- 研究を通してともに成長しましょう

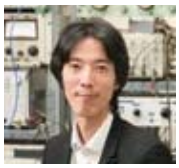
Applied Physics

Takeshi Moriyasu

守安　毅〔講師〕

物性・電磁物理分野

- 「光と物質の相互作用」という言葉をテーマにレーザーやテラヘルツ光源を駆使して研究を行っていきます



Takashi Furuya

古屋　岳〔助教〕

物性・電磁物理分野

- 分子分光の研究をしています。また、その光源となるテラヘルツ波の発生や検出の研究をしています

Yuusuke Yamaguchi

山口　裕資〔助教〕

物性・電磁物理分野

- テラヘルツ帯で動作するジャイロトロンを用い、荷電粒子と電磁波の相互作用について研究しています。現在、特に高性能電子銃の開発に注力しています

Nobu Kuzuu

葛生　伸〔教授〕

分子科学分野

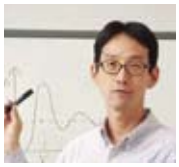
- シリカガラスとよばれる半導体産業で用いられる特殊なガラスを熱処理したり、紫外線を当てたりしたときの内部の構造変化を研究しています

Jingyuan Chen

陳　競鳶〔教授〕

分子科学分野

- 界面における電荷移動過程の物理化学・エネルギー科学
- 自然を感知・解読できる自分のため、知的好奇心を満たす道へ



Takahiro Koishi

古石　貴裕〔准教授〕

分子科学分野

- コンピュータで原子や分子の動きを再現し、液体、高分子、タンパク質などの性質をナノスケールで調べています

Yoshinori Tamai

玉井　良則〔准教授〕

分子科学分野

- 専門は高分子物理学および計算科学。計算機シミュレーションにより高分子材料設計や生体機能の解明を進めています

Toyohiko Nishiumi

西海　豊彦〔准教授〕

分子科学分野

- 1段階多電子移動有機分子の合成と電気化学測定
- 一度に電子を沢山動かして、高速応答の2次電池や、太陽電池を作ります

Human and Artificial Intelligent Systems

知能システム工学専攻

本専攻は「生物・自然に学び、その成果を工学的に再構成し、知的で人に優しいシステムとして実現すること」を目的に教育研究を行うIMAGINEERの集団です。コンピュータやメカトロニクスを駆使するとともに、人間についても総合的な思考ができるIMAGINEER、すなわち、豊かな人間性を持った新しいタイプの技術者・研究者を育成し、地域・社会・産業界や豊かな人間社会の創出に貢献します。

Hiroki Takada

髙田　宗樹〔教授〕

知能創成分野

- 非線形非平衡系にみられる「かたち」に関心がある。特に、生体信号を扱い、「立体映像による眼疲労と酔いの原因の特定」などに興味がある

Takayuki Hirata

平田　隆幸〔教授〕

知能創成分野

- 非線形物理学、カオス制御、複雑系科学、形の科学の研究
- 知の探求という大海原へ漕ぎ出そう

Masazumi Katayama

片山　正純〔准教授〕

知能創成分野

- 人の認知と運動に関する脳内情報処理メカニズムについて研究しています。さらに、人と同じように上達する人工筋ロボットにも取り組んでいます

Tatsuya Asai

浅井　竜哉〔准教授〕

知能創成分野

- 放射性薬剤を用いた生体代謝機構の解析、ポジトロンCTによる生体情報の画像化

Jousuke Kuroiwa

黒岩　丈介〔准教授〕

知能創成分野

- カオスの基礎とその応用について研究し、人のような柔軟で卓越した情報処理のメカニズムの解明や実現を目指しています

Tomohiro Odaka

小髙　知宏〔教授〕

未来システム創造分野

- 情報安全工学やネットワークセキュリティに関する研究、また、知的行動の工学的モデリングに関する研究を担当している

Yasutake Takahashi

髙橋　泰岳〔教授〕

未来システム創造分野

- テザー係留型飛行ロボット、ヒューマン・ロボット・インタラクション、学習するパワードスーツ、人型ロボットの模倣学習

Tomohide Naniwa

浪花　智英〔教授〕

未来システム創造分野

- 学習制御・Model-Based適応制御、ロボットハンドの協調制御、RT OSを用いた制御系実装

Motoharu Fujigaki

藤垣　元治〔教授〕

未来システム創造分野

- 光や画像を用いて高速かつ高精度に三次元計測や構造物の変位計測ができる手法を研究しています。実際に役立つ使いやすい光計測システムを作ることをめざしています

Yasuhiro Ogoshi

小越　康宏〔准教授〕

未来システム創造分野

- 人間がもつ、たくさんの優れた能力。その謎にせまるため、表情の認識や表情の表出について、模倣学習時の脳波特性について研究しています

Eiichi Shoji

庄司　英一〔准教授〕

未来システム創造分野

- 次世代の夢を拓く「人工筋肉」の開発。妥協なしの自前の横断的な知識と技術の追求により、世の中に役立つ、夢の具体化に挑戦してます。詳細は研究室ホームページの動画を!

Kanji Tanaka

田中　完爾〔准教授〕

未来システム創造分野

- ロボット、計算機視覚
- 「迷子にならないロボット」を目指して、視覚移動ロボットの研究開発を行っています

Kouki Nagamune

長宗　高樹〔准教授〕

未来システム創造分野

- 私の研究室では、手術や診断を支援する装置やシステムの開発を行っています。未来の医療がよりよいものになる事を夢見て頑張っています

Yoshiaki Taniai

谷合　由章〔講師〕

未来システム創造分野

- ヒトやロボットの最適運動制御

Yuta Goto

後藤　優太〔助教〕

未来システム創造分野

- 光情報処理に関する研究をしています。特に、ホログラフィ技術を用いた高性能な光計測システムや光メモリの開発を行っています

〔客員教授〕

知能創成分野

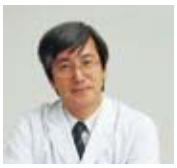
長谷川　良平

Ryouhei Hasegawa

Frontier Fiber Technology and Science

繊維先端工学専攻

本専攻は、繊維素材やその加工・応用展開を推進する「コア技術領域」、バイオ・医工学分野への展開も視野に入れた「発展的領域」、さらに、歴史ある繊維分野での豊富な知識を活かしつつ産業への応用展開を目指す「専門強化領域」という教育研究体制を整え、繊維に特化した教育研究に取り組み「繊維マインド」を持つ研究者・技術者を養成します。



Shin-ichiro Suye

末　信一朗〔教授〕

繊維先端工学分野

- 遺伝子工学を用いた新しい分子変換素子の創製とバイオセンサや環境に優しい技術への応用
- 新しいバイオ技術で未来社会を実現しよう

Shuichi Tanoue

田上　秀一〔教授〕

繊維先端工学分野

- 高分子成形加工で見られる熱・流動計算。押出機を使った材料開発とその応用
- 研究開発に携わるための第一歩は大学院進学です

Koji Nakane

中根　幸治〔教授〕

繊維先端工学分野

- 有機ー無機ハイブリッド材料の形成と応用（フィルムと繊維）
- 材料が進むと技術が進む。繊維材料開発は技術の発展に欠かせません

Kenji Hisada

久田　研次〔教授〕

繊維先端工学分野

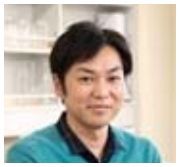
- 界面を利用した分子の組織構造の構築と機能発現
- 現代科学はまだまだ完璧ではありません．探ればでてくる謎を解き明かしてみませんか?

Hideyuki Uematsu

植松　英之〔准教授〕

繊維先端工学分野

- 高分子の溶融レオロジーの観点から成形加工性を制御する研究
- 炭素繊維系コンポジトの成形加工に関する研究



Hiroaki Sakamoto

坂元　博昭〔准教授〕

繊維先端工学分野

- 金属や繊維表面へ精密に分子修飾された機能性材料の創出を目指します。さらに、得られた材料をエネルギー変換・センシング材料として応用展開します

Kazumasa Hirogaki

廣垣　和正〔准教授〕

繊維先端工学分野

- 超臨界流体や電子線による繊維・高分子材料の機能加工、界面・コロイド化学を応用した構造発色材料の創出に関わる研究に取り組んでいます

Satoshi Fujita

藤田　聡〔准教授〕

繊維先端工学分野

- 細胞レベルでの生命機能の制御を目指したバイオマテリアルの開発と医療への応用
- 新しい材料で医学・生物学にイノベーションを起こそう!

Hanako Asai

浅井　華子〔助教〕

繊維先端工学分野

- ナノ繊維という、1000分の1ミリメートル未満の極細繊維を用いて、新たな機能性材料を作製したり、その構造と物性との関係について研究しています

Toyoaki Hirata

平田　豊章〔助教〕

繊維先端工学分野

- 今や私たちの日常生活になくてはならないものである高分子。その高分子の構造と物性を理解し制御することを目的として研究を行っています

〔客員教授〕

繊維産業工学分野

松田　光夫

Mitsuo Matsuda

〔客員准教授〕

繊維産業工学分野

水嚢　満

Mitsuru Mizuno

繊維産業工学分野

馬場　俊之

Toshiyuki Baba

Nuclear Power and Energy Safety Engineering

原子力・エネルギー安全工学専攻

本専攻は、エネルギー及び原子力を「安全と共生」という観点から学際的・学術的に研究する場として、2004年4月に設置されました。多くの原子力発電所が立地する福井県の大学として、原子力発電及び立地地域における安全性の確保、共生社会システムの模索、電力ネットワークの安定、技術移転による地域産業の活性化などの諸課題に関する実践的かつ多面的な教育・研究を目的としています。

Osamu Kuwazuru

桑水流　理〔教授〕

エネルギー安全工学分野
- 構造物の破壊や腐食など複雑現象の高精度シミュレーション技術・設計技術の開発
- 志は高く、自分に厳しく、人に優しく、継続は力なり

Yoichi Tamagawa

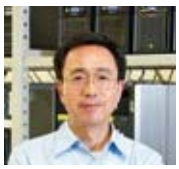
玉川　洋一〔教授〕

エネルギー安全工学分野
- 弱い相互作用に関わる高エネルギー実験や原子核実験に興味があります
- 学内の研究室ばかりでなく国内外の研究施設でも実験しています

Hideaki Niki

仁木　秀明〔教授〕

エネルギー安全工学分野
- レーザー同位体分離、レーザー分光分析：高度に制御されたレーザー光で物質を同位体レベルで分離し、新機能物質を作り出そうとしています



Toshiyuki Meshii

飯井　俊行〔教授〕

エネルギー安全工学分野
- 構造物の限界強度評価を可能とするための研究を通じて、構造、材料を安心して長期使用できるようにするための支援を行っています

Daisuke Kawasaki

川崎　大介〔講師〕

エネルギー安全工学分野
- 原子力施設の廃止措置シナリオや放射性廃棄物処分場の安全性の評価手法に関して研究開発を行っています

Kyohei Nakajima

中島　恭平〔講師〕

エネルギー安全工学分野
- 素粒子であるニュートリノの性質を調べる二重ベータ崩壊探索や、原子炉近距離におけるニュートリノ観測研究に取り組んでいます

Youichirou Matsuo

松尾 陽一郎〔講師〕

エネルギー安全工学分野
- 放射線生物学や放射線防護の研究をしています。低線量放射線による生体応答を解明し、その影響を細胞やDNAレベルで検出するための新手法を開発することを目指します

Masaki Teranishi

寺西　正輝〔助教〕

エネルギー安全工学分野
- 計算固体力学の研究をしています。研究テーマはアルミ鋳造合金の疲労メカニズムの解明、金属材料の硬化現象の数理モデル化等です

Yuji Arita

有田　裕二〔教授〕

原子力工学分野
- 高速炉燃料サイクルに関わる燃料・材料の研究
- 日本の原子力基盤の一端を担ってみませんか

Yoshinobu Izumi

泉　佳伸〔教授〕

原子力工学分野
- 放射線の生体影響、新規な放射線量測定手法の開発、放射線生物学、放射線化学全般
- やりがいのある研究、放射線に対する正しい知識と確かなスキルで社会に貢献しよう!

Masayoshi Uno

宇埜　正美〔教授〕

原子力工学分野
- 二酸化ウランペレットとジルコニウム合金からなる原子炉燃料について、通常運転時の物性変化から事故時の溶融挙動までを模擬実験を中心に調べ、より安全な原子力システムの確立と福島第一原子力発電所の廃炉に貢献します

Kenichi Fukumoto

福元　謙一〔教授〕

原子力工学分野
- 照射効果研究からの原子力材料開発、原子力構造材料の安全性評価
- これからの原子力の安全について福井から技術研究の発信を行っていきます

Nakahiro Yasuda

安田　仲宏〔教授〕

原子力工学分野
- 国内外の研究機関や企業との連携による新しい放射線計測技術開発
- 低線量被ばくの人体影響が研究室で評価できる「細胞解析工場」確立など

Tadashi Watanabe

渡辺　正〔教授〕

原子力工学分野
- 熱水力現象の物理から原子炉事故まで、計算機を使った数値実験を行っています

Michihiro Ohori

大堀　道広〔准教授〕

原子力工学分野
- 原子力施設とその周辺地域の安全性向上を念頭に、地震や津波の研究・教育を行っております。

Van Rooijen, Willem

ファン ローイエン ウィレム〔准教授〕

原子力工学分野
- 原子炉物理学（原子炉における中性子と物質の挙動）

〔客員教授〕

原子力工学分野
岡　潔
Kiyoshi Oka

原子力工学分野
釜谷　昌幸
Masayuki Kamaya

原子力工学分野
此村　守
Mamoru Koremura

原子力工学分野
福谷　耕司
Koji Fukutani

〔客員教授〕

原子力工学分野
月森　和之
Kazuyuki Tsukimori

原子力工学分野
島津　洋一郎
Yoichiro Shmazu

エネルギー安全工学分野
榊原　安英
Yasuhide Sakakibara

〔特命教授〕

原子力工学分野
宮原　信哉
Shinya Miyahara

原子力工学分野
柳原　敏
Satoshi Yanagihara

〔特命准教授〕

原子力工学分野
石垣　将宏
Masahiro Yanagihara

〔客員准教授〕

原子力工学分野
歌野原 陽一
Yoichi Utanohara

〔特任教授〕

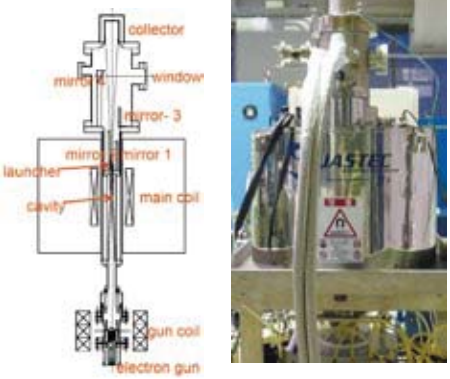
原子力工学分野
安濃田 良成
Yoshinari Anoda

工学研究科の教育と研究をサポート。

専門性の高い施設とセンターが高度な工学の研究、学習を応援します。

遠赤外領域開発研究センター

遠赤外領域開発研究センターは、電波と光の中間に位置する新しい電磁波領域「遠赤外光／テラヘルツ波」を総合的に開発研究しています。独自開発の高出力テラヘルツ波源「ジャイロトロン」をさらに高性能化し、物質科学・生命科学・素粒子物理学・新機能材料開発・エネルギー科学等の広範な領域で新しい研究に適用するとともに、新方式テラヘルツ波発生・分光法を開発しています。図は最近開発した高性能ジャイロトロンの断面図と写真です。本センターは、国内外多数の研究機関と学術交流協定及び共同研究覚書を締結してグローバルな研究協力を展開し、遠赤外領域研究の世界的拠点としても注目されています。

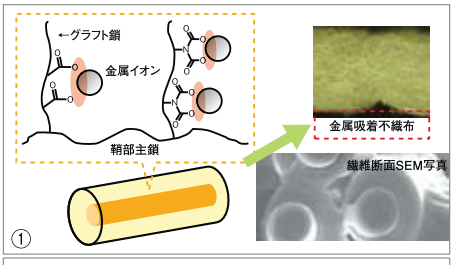


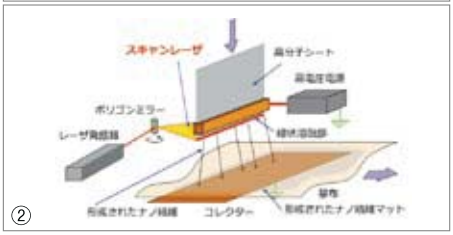
附属国際原子力工学研究所

福井県嶺南地域の豊富な原子力関連施設を活用した原子力の基礎・基盤研究及び応用研究を進めていくとともに、原子力の安全性向上、防災危機管理の向上に資する研究、地震・津波に強い原子力システムの開発、適切かつ迅速な放射線防護対策等の研究をはじめ、仏国、米国をはじめとする海外の研究機関との学術交流を通した国際的な原子力安全基盤研究を進めていきます。また、仏国、米国をはじめ、インドネシア、ベトナム、モンゴル等のアジア諸国から留学生、研究者等を受け入れ、質の高い国際的な人材育成を行います。
さらに、北陸・中京・関西圏の大学、研究機関との連携、福井県内の原子力関連施設を核とした研究拠点の形成を推進していきます。

附属繊維工業研究センター

福井の地場産業である繊維工業に関する研究を推進するためのセンターとして、2007年度に設立された工学研究科の附属施設です。センターでは、産学官の繊維に関わる共同研究を推進し、企業など学外者と一緒に先端的な研究を行うことで、問題解決能力・自己学習能力・表現力のある大学院生の育成をサポートしています。
研究例：①
福井大学が長年培ってきた電子線加工技術を基礎に、レアメタルなどの金属イオンを選択的に、吸着・回収できる不織布の開発に成功
研究例：②
線状レーザ溶融静電紡糸法の開発により、食品工業、メデイカルなどの分野で要求される高透水量の精密ろ過膜として、ナノファイバーマットの量産化に成功





産学官連携本部

産学官連携推進部門

学内外から要請される産学官連携活動を的確かつ迅速にコーディネートする組織です。産学官連携本部の内部・外部の窓口となる連携企画部、大学院生が関わることも多い共同研究の窓口となる共同研究推進部、学生や教育の独創的アイデアを発掘し、事業として育てたり、起業化に向けた教育研究をサポートする産業人材育成部、大学院生の研究でもお世話になることの多い分析や計測技術を支援する計測・技術支援部の4つの部で構成されています。

研究統括部門

研究者とともに、研究活動の企画・マネジメント、研究成果活用推進を行い、研究活動の活性化や研究開発マネジメントの強化を目的とした組織です。大学院生も加わる可能性のある政府資金研究プロジェクトの申請、契約から成果報告までのサポートなどを行う研究・企画管理部、研究を通じて得られた知的財産をしっかりサポートする知的財産・技術移転部の2つの部で構成されています。

Toshihiro Inoue

井上　利弘〔准教授〕

- 電池および電気化学、更には企業や官庁での経験を踏まえた技術経営（MOT）
- 科学技術を基軸に新たな社会を考えていきましょう

Takuji Takemoto

竹本　拓治〔准教授〕

- 日系中小・ベンチャー企業の東南アジア進出、オンラインゲームの経済教育への応用
- 起業に対する勇気と無謀の違いは、リスクを正しく認識した上で行動するか否かです!

総合情報基盤センター

教育や研究、大学運営に必要な情報処理環境を提供するとともに、教育・研究に不可欠な大学のネットワークの管理運営を行うセンターです。大規模な計算や大容量データ処理を行う科学技術計算、医療情報処理計算という役割だけでなく、学内ICT環境の向上に向けた指導・支援も行っています。また、近年問題となっている情報セキュリティ向上に対する指導・支援にも力を入れており、これらの活動を通じて、大学院における教育の向上と研究の推進をサポートしています。

国際センター・語学センター

国際センター及び語学センターは、外国人留学生に対して日本語・日本文化・日本事情に関する教育を実施するとともに、外国人留学生及び海外留学を希望する本学学生に、修学上、生活上の指導助言を行っています。また、学生をグローバル人材として育成するために、語学力や異文化感受性などを培う海外研修プログラムの実施や、海外派遣支援金の募集・支給等を行っています。

本学には、24ヶ国・地域から214名（平成30年5月1日時点）の外国人留学生が在学しており、日本人学生との交流、地域社会との交流を推進しています。帰国留学生が組織する福井大学留学生同窓会も12ヶ国・地域に15支部まで広がっており、今後も本学は、帰国留学生との強固なネットワークを築いていきます。

留学生と教職員との交歓会

Yoshinobu Torao

虎尾　憲史〔教授〕

- 専門教育のための日本語教育、学生の国際交流と地域の国際化支援
- 「みんな同じ地球人!」を胸にグローバル交流と絆を深めましょう

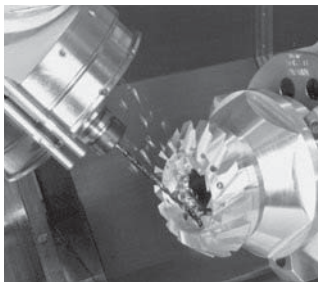
高度人材育成センター

本センターは、工学研究科の「学生の個性に応じた総合力を育む大学院教育」を支援しています。本センターは、つぎの5部門から構成されています。(1)地域と連携したプロジェクト型学習(PBL)を支援する「地域連携部門」、(2)学生主体プロジェクト研究やティーチングアシスタント、リサーチアシスタントを支援する「修学・研究支援部門」、(3)英語を中心とした外国語教育を実施する「外国語教育部門」、(4)産学官連携本部などと連携し自律型産業人材育成のための実践教育を支援する「実践大学院工学教育部門」、(5)長期インターンシップを統括する「派遣型大学院工学教育部門」。各部門が提供する様々な教育により大学院生一人ひとりが総合力(専門力・応用力・即戦力)を養えるように支援します。

大学院教育の実施・組織的サポート

先端科学技術育成センター

アイデアを実現する創造的エンジニアの育成を創成教育、精密工作、起業化育成の多面的な角度から支援するとともに、学生の活動(ロボット製作、まちづくりなど)も支援します。

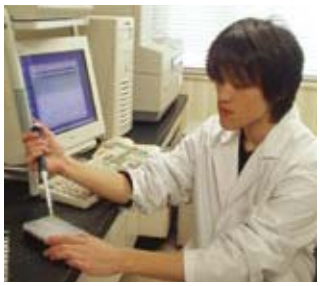


附属超低温物性実験施設

液体窒素や液体ヘリウムを用いた超低温領域での実験研究を行う施設で、研究に必要な液体窒素や液体ヘリウムの製造・供給及び使用後のヘリウムガスの回収も担います。

ライフサイエンスイノベーションセンター

学部の枠を越えて生命科学に関連する幅広い分野の教育と先端的生命科学研究を高水準で推進するとともに、医学や生命科学を理解し応用できる優れた技術者を育成します。



地域環境研究教育センター

地域に密着した環境問題を調査し、地域の環境を保全・改善するための研究を行っており、環境に対する一般の方々の理解を支援するための環境教育も重要視しています。

附属図書館

保健管理センター

語学センター

国際交流学生宿舎

IMAGINEER = Imagine + Engineer

心に描いてみよう。

技術が生み出すモノの向こうにある人々の暮らしを。

モノをつくることは生活をデザインすること。

心に描いてみよう。

将来の自分の姿を。

どんな姿を目指そうとしているのか?

今、そのために何をするべきなのか?

ここでの2年間で、自分を進化させるための

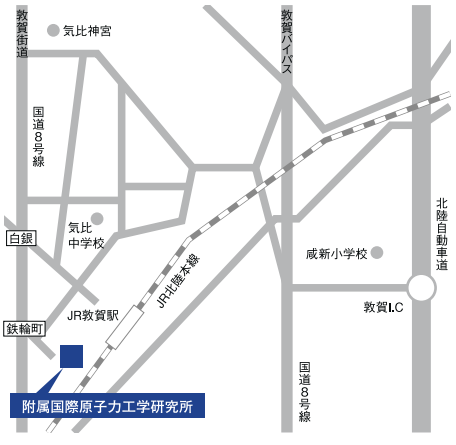
「志」を磨いてみよう。

文京キャンパスへ

[バス]JR福井駅前(②のりば)ー福井大学前下車(所要時間 約10分)

[私鉄]えちぜん鉄道福井駅ー福大前西福井駅下車 (所要時間 約10分)

[北陸自動車道]福井I.C.又は福井北I.C.から (所要時間 約30分)



敦賀キャンパス(附属国際原子力工学研究所)へ

[鉄道]JR敦賀駅から徒歩3分

[自家用車]北陸自動車道　敦賀I.C.から敦賀市街地方面へ10分

福井大学大学院工学研究科
博士前期課程

〒910-8507 福井市文京3-9-1 TEL.0776-27-9927
https://www.eng.u-fukui.ac.jp/

本誌のいかなる部分も無断転載を禁ずる　ⓒ福井大学(University of Fukui)